

令和2年度 情報モラル調査結果(確定版)

令和3年3月19日
岐阜県教育委員会

【 実施概要 】

- <調査対象> 岐阜県内公立の小中高等学校及び特別支援学校高等部
 小学校 1年から6年 の児童
 中学校 1年・2年・3年 の生徒
 高等学校 1年・2年・3年 の生徒
 特別支援学校 高等部 1年・2年・3年 の生徒
- <調査方法> 各学校で、校舎別・課程別・学年別に1クラスを抽出して、無記名アンケートにより調査
- <実施期間> 令和2年11月～12月

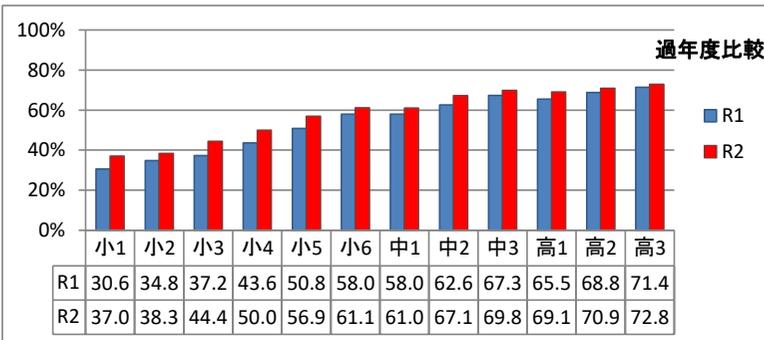
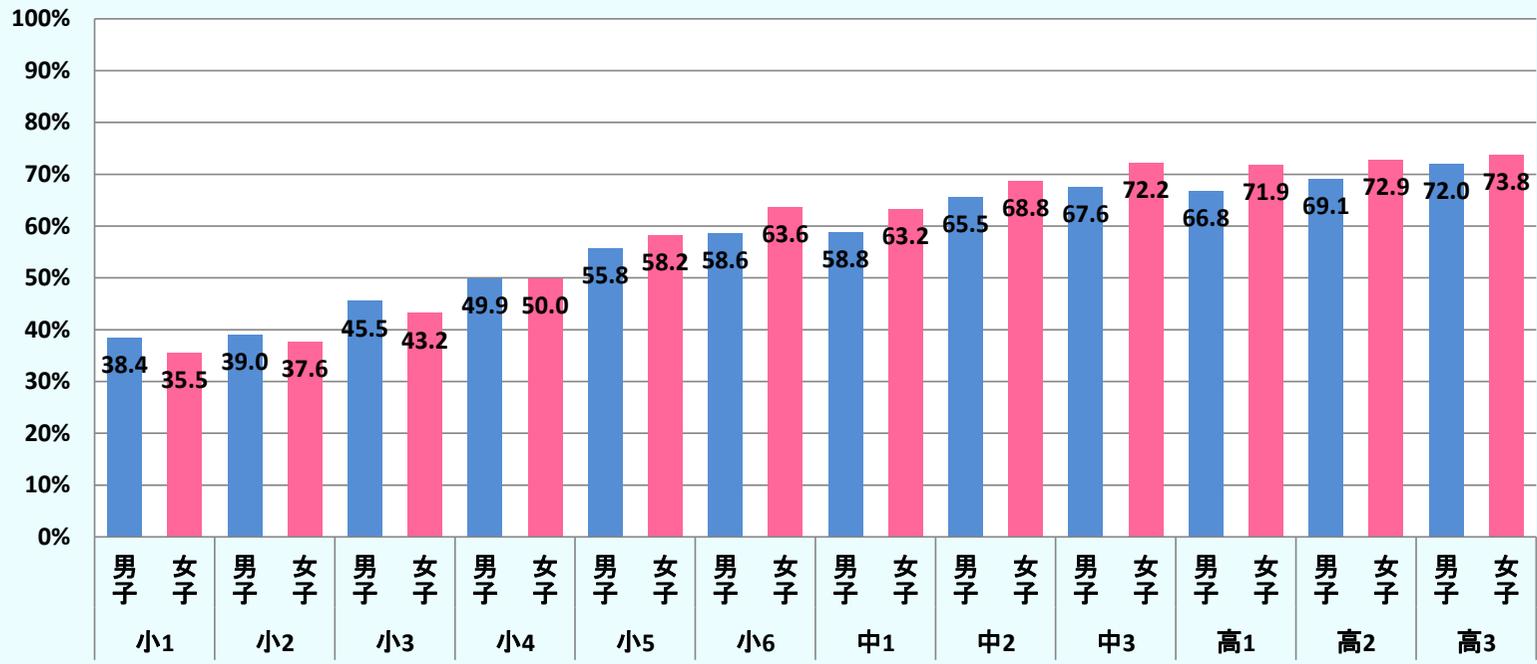
<調査数> ※「高」は特別支援学校高等部を含む
 (令和2年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	366	366	366	366	366	366	178	178	178	88	88	88	366	178	88	632
人数	8,112	8,298	8,410	9,123	9,106	9,126	4,724	5,035	5,039	2,422	2,510	2,405	52,175	14,798	7,337	74,310
男子	4,173	4,177	4,240	4,648	4,622	4,646	2,391	2,535	2,549	1,326	1,317	1,360	26,506	7,475	4,003	37,984
女子	3,939	4,121	4,170	4,475	4,484	4,480	2,333	2,500	2,490	1,096	1,193	1,045	25,669	7,323	3,334	36,326
男女比(%)	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	50 : 50	51 : 49	55 : 45	52 : 48	57 : 43	51 : 49	51 : 49	55 : 45	51 : 49

(令和元年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	369	369	369	369	369	369	178	178	178	88	88	88	369	178	88	635
人数	7,982	8,145	8,113	8,890	8,988	8,891	4,881	5,145	5,104	2,614	2,595	2,555	51,009	15,130	7,764	73,903
男子	4,027	4,114	4,133	4,500	4,564	4,535	2,462	2,604	2,615	1,431	1,397	1,357	25,873	7,681	4,185	37,739
女子	3,955	4,031	3,980	4,390	4,424	4,356	2,419	2,541	2,489	1,183	1,198	1,198	25,136	7,449	3,579	36,164
男女比(%)	50 : 50	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	50 : 50	51 : 49	51 : 49	55 : 45	54 : 46	53 : 47	51 : 49	51 : 49	54 : 46	51 : 49

Q1. 家に、インターネットに接続できて、あなたが使えるパソコンがありますか。



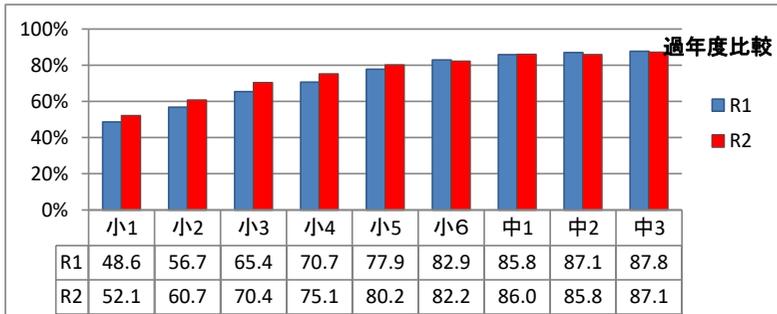
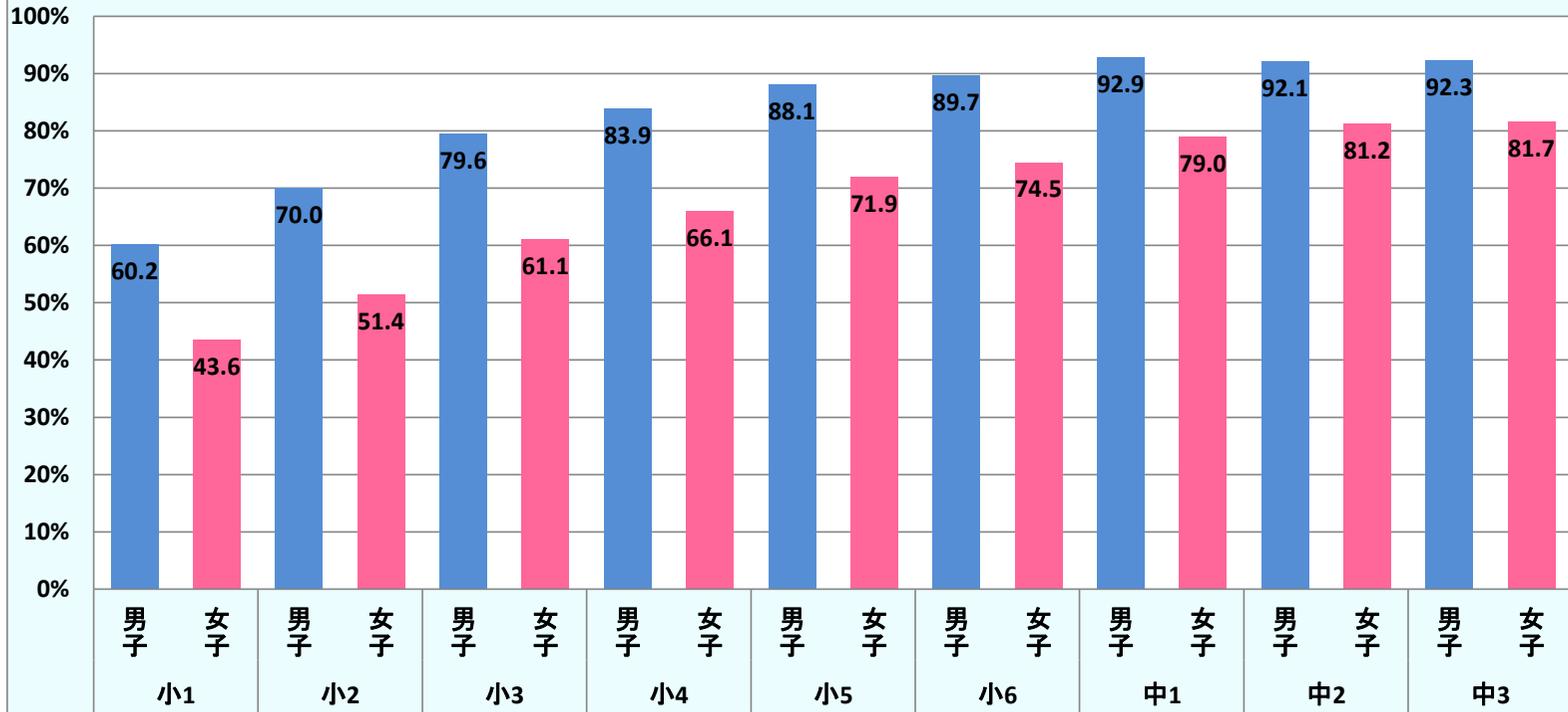
【傾向】

・前年度と比較してパソコンの使用が増加している。背景には、新型コロナウイルスの影響によるオンライン学習支援等でパソコンの利用が増加したのではないかと考えられる。

【指導・啓発のポイント】

・今後もオンライン学習支援の機会が多くなることが予想されることから、自宅パソコンにセキュリティソフトがインストールされているか等の確認が必要。

Q2.あなたは、通信型ゲーム機や携帯音楽プレーヤーをお持ちですか。



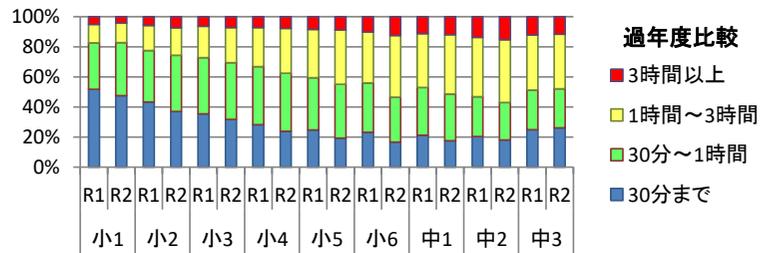
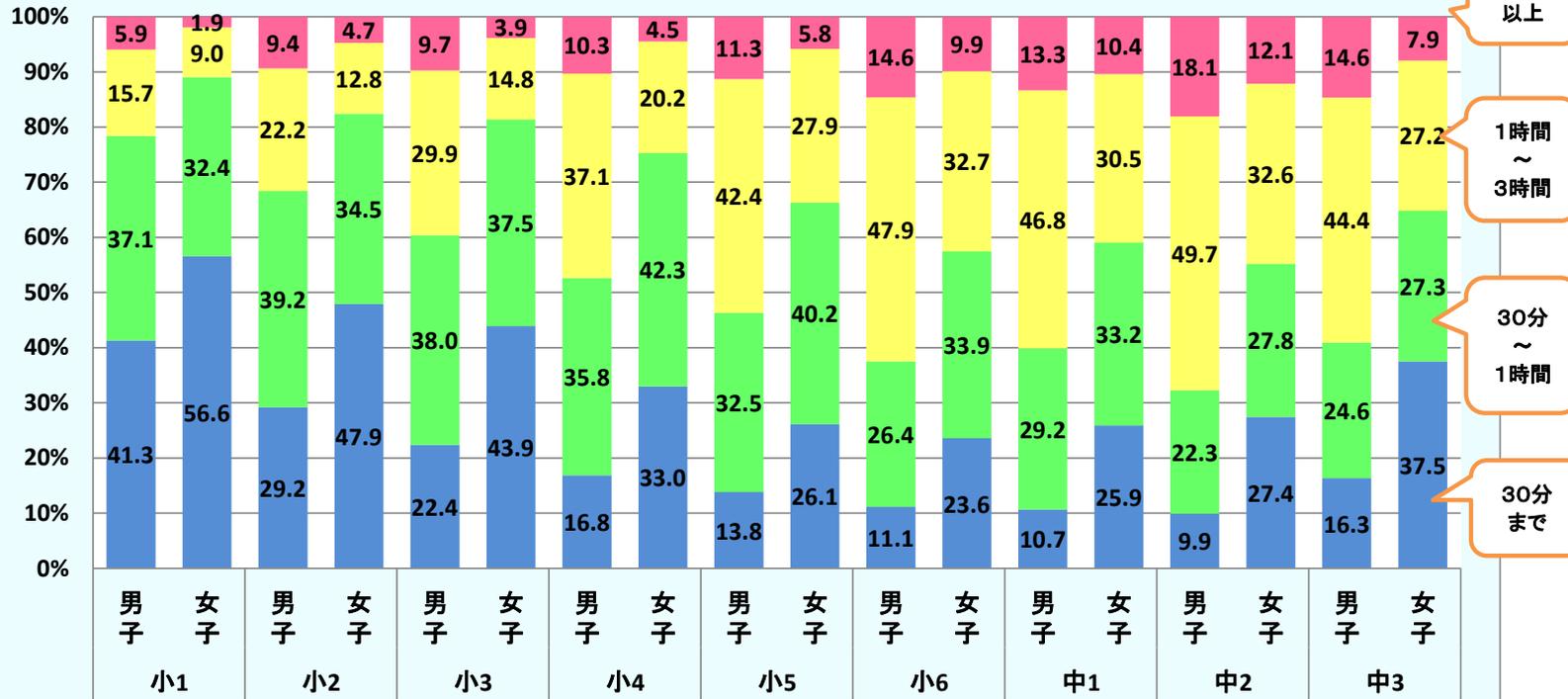
【傾向】

- ・どの学年においても男子の所持率は非常に高い。
- ・学年が上がっていくにつれて、男女とも所持率が高くなっていく。

【指導・啓発のポイント】

・通信型ゲーム機からでも、インターネットに接続し、面識のない者同士でチームを組んでプレイすることができる。個別のやり取りから、トラブルに発展していくケースも少なくないことから、ルールやマナー、ゲーム機の設定等（ペアレンタルコントロール）について、児童生徒、保護者に対して、継続的に啓発する必要がある。

Q3.通信型ゲーム機を使う時間は平日で1日あたりどれくらいですか。(Q2で持っていると答えた人)



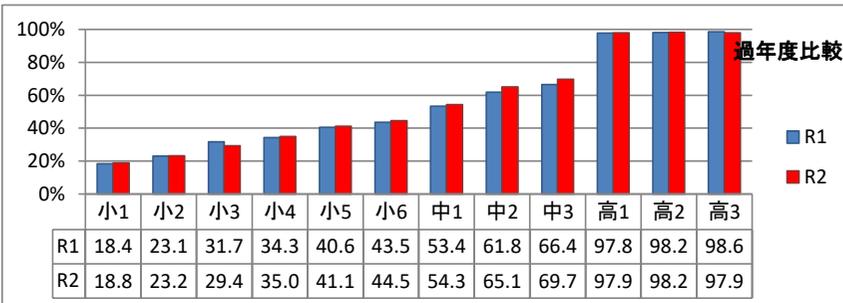
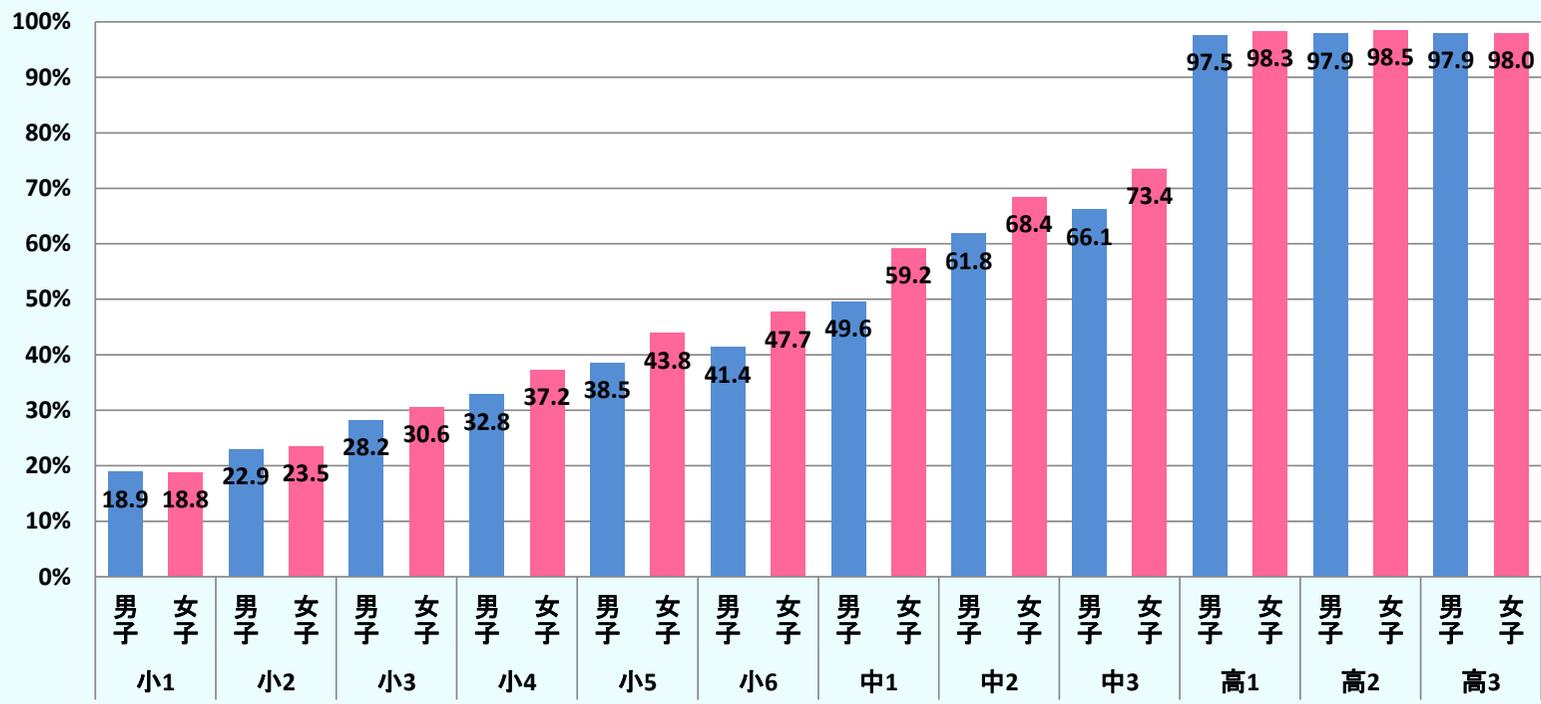
【傾向】

- ・前年度と比較して、1～3時間以上使用している児童生徒が増加している。
- ・小学校低学年で、3時間以上使用している児童が、平均6%程度いる。

【指導・啓発のポイント】

- ・小学校低学年では、長時間使用が比較的小さいことから、家庭内でのルール作りができていると考えられる。学年が上がっていても家庭内のルールが守れるよう、生徒、保護者に向けた啓発を継続する必要がある。

Q4. あなたは、自分の携帯電話を持っていますか。



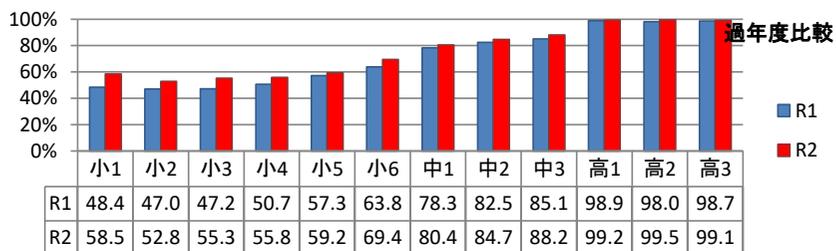
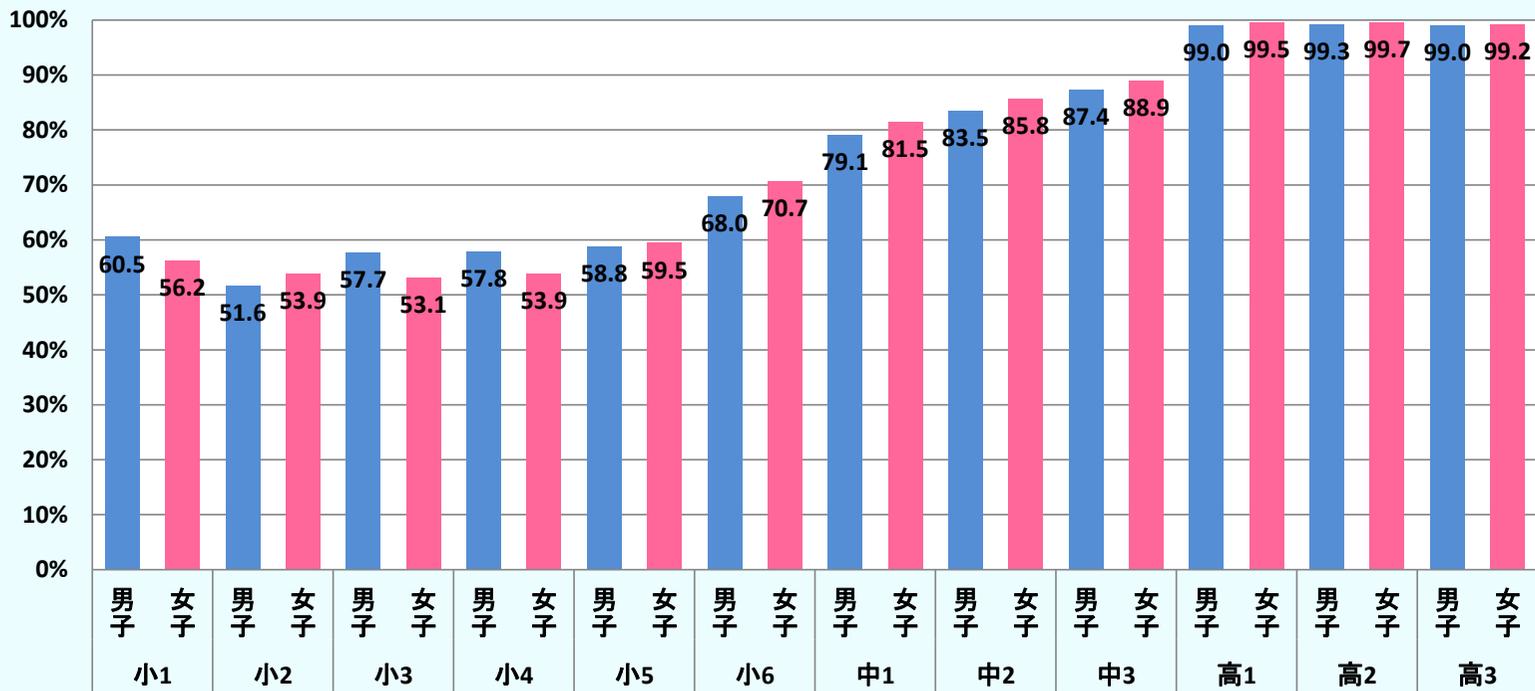
【傾向】

- ・毎年徐々にではあるが、小中学生の所持率が上がっている。
- ・どの学年においても女子の所持率が高い。

【指導・啓発のポイント】

- ・複数の情報を組み合わせたり、写真に含まれている情報(位置情報、撮影日時の記録等)から、個人を特定され、付きまといなどのトラブルに巻き込まれるケースがあることを児童生徒、保護者に紹介する。

Q5.スマートフォンですか。
(Q4で携帯電話を持っていると答えた人)



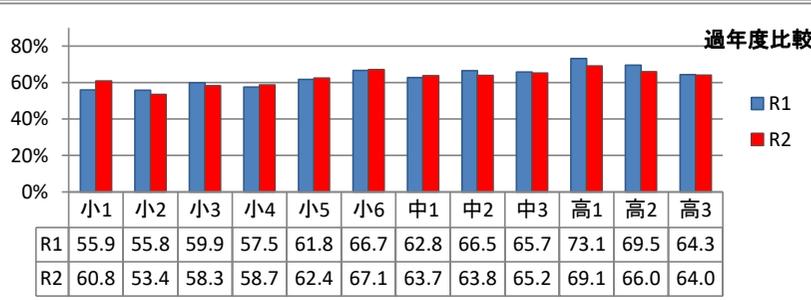
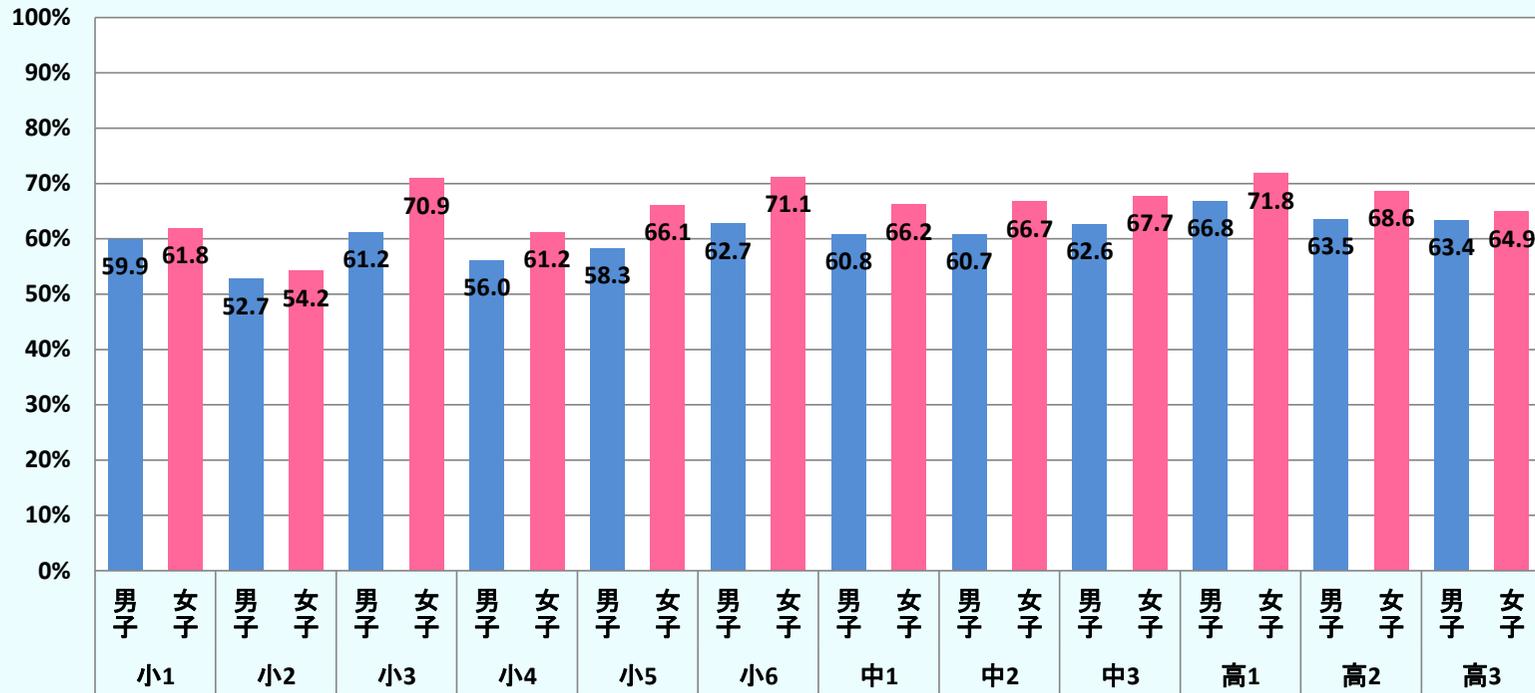
【傾向】

・前年度と比較して小学生、中学生の所有率が上昇している。特に小学校低学年の所有率が顕著に高くなっている。

【指導・啓発のポイント】

・小学生において、どの学年も所有率が5割を超えている。有害サイトにアクセスし、トラブルにあわないために、フィルタリング設定の重要性を児童生徒、保護者に対して、継続的に啓発することが必要。

Q6.フィルタリングしていますか。(Q4で携帯電話をもっていると答えた人)



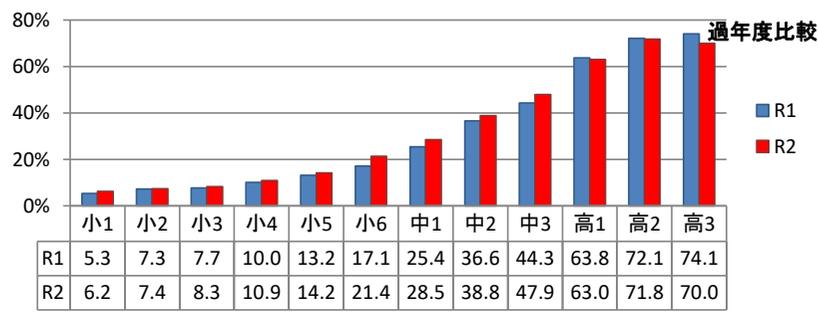
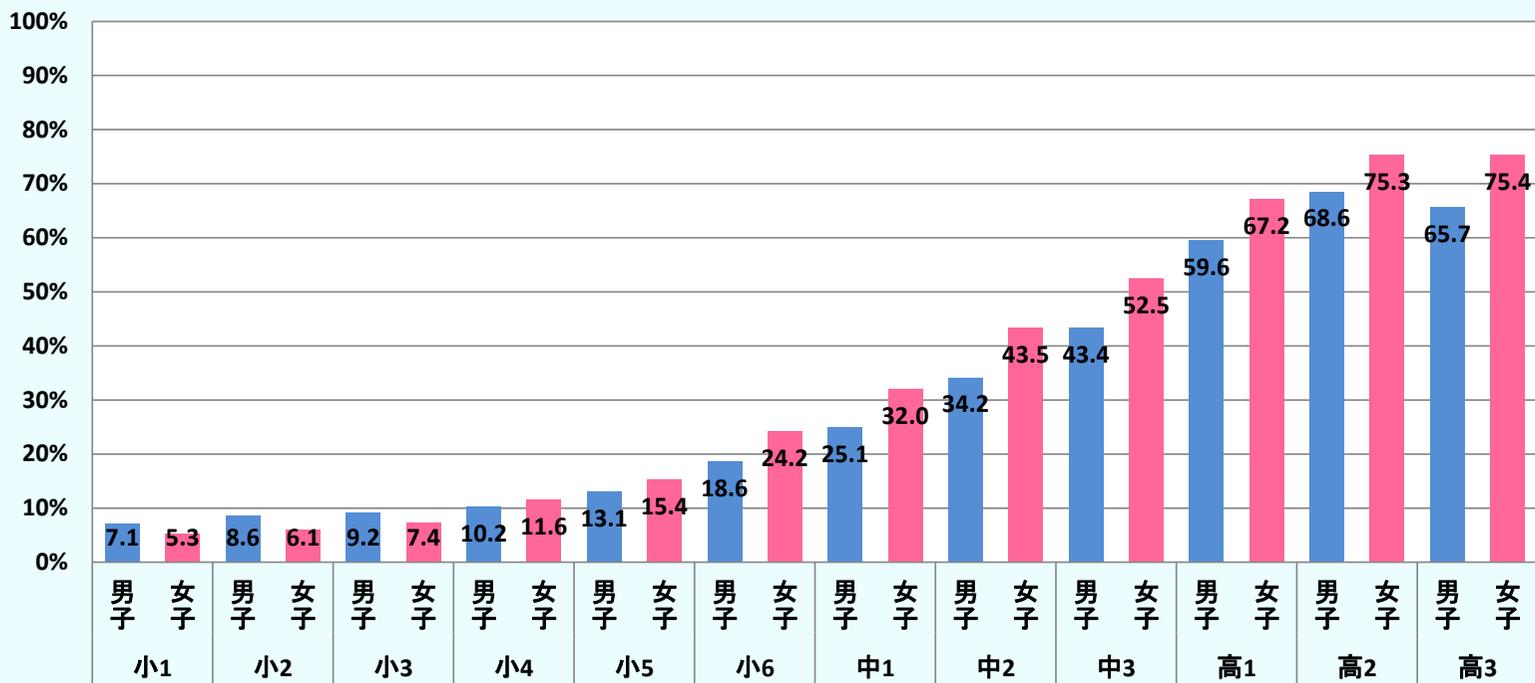
【傾向】

- ・全体的に設定率が6割から7割程度となっている。
- ・全学年を通して、男子の設定率が低い。

【指導・啓発のポイント】

・「青少年インターネット環境整備法」「岐阜県青少年健全育成条例」において、正当な理由がない限りは、フィルタリングサービスを外すことができないこととなっており、児童生徒、保護者に対して、フィルタリングの重要性についての周知啓発が必要。

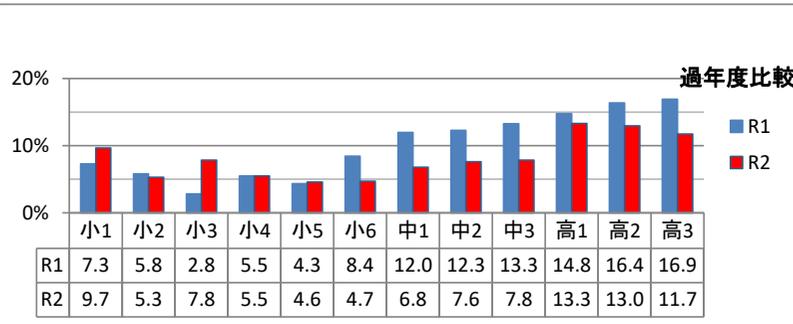
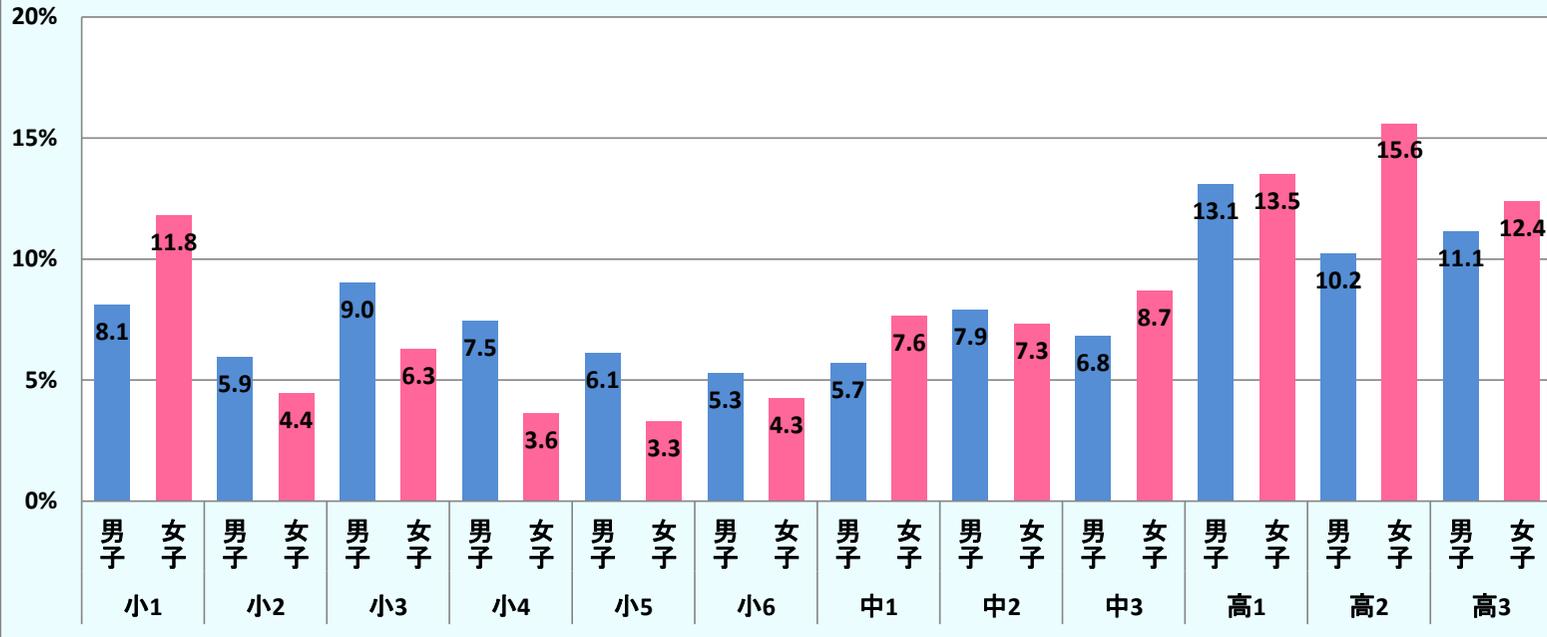
Q7.あなたは、インターネットや携帯電話でSNSに書き込みをしたことがありますか。



【傾向】
 ・学年が上がっていくにつれて、書き込み率が上昇。

【指導・啓発のポイント】
 ・SNS等に他人を誹謗中傷する書き込みを匿名でしたとしても、被害者からの情報開示請求により、発信者を特定することができ、たとえ、児童生徒であっても、侮辱罪や名誉棄損罪、岐阜県迷惑行為条例にある名誉を害する事項の告知等の違反になる場合があることを、児童生徒に注意喚起する。

Q8.あなたは、他人の悪口や個人情報を公開するような書き込みをしたことがありますか。(Q7で「書き込みをしたことがある」と答えた人)



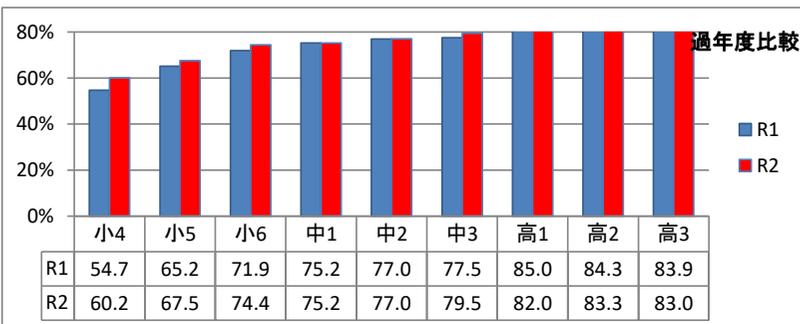
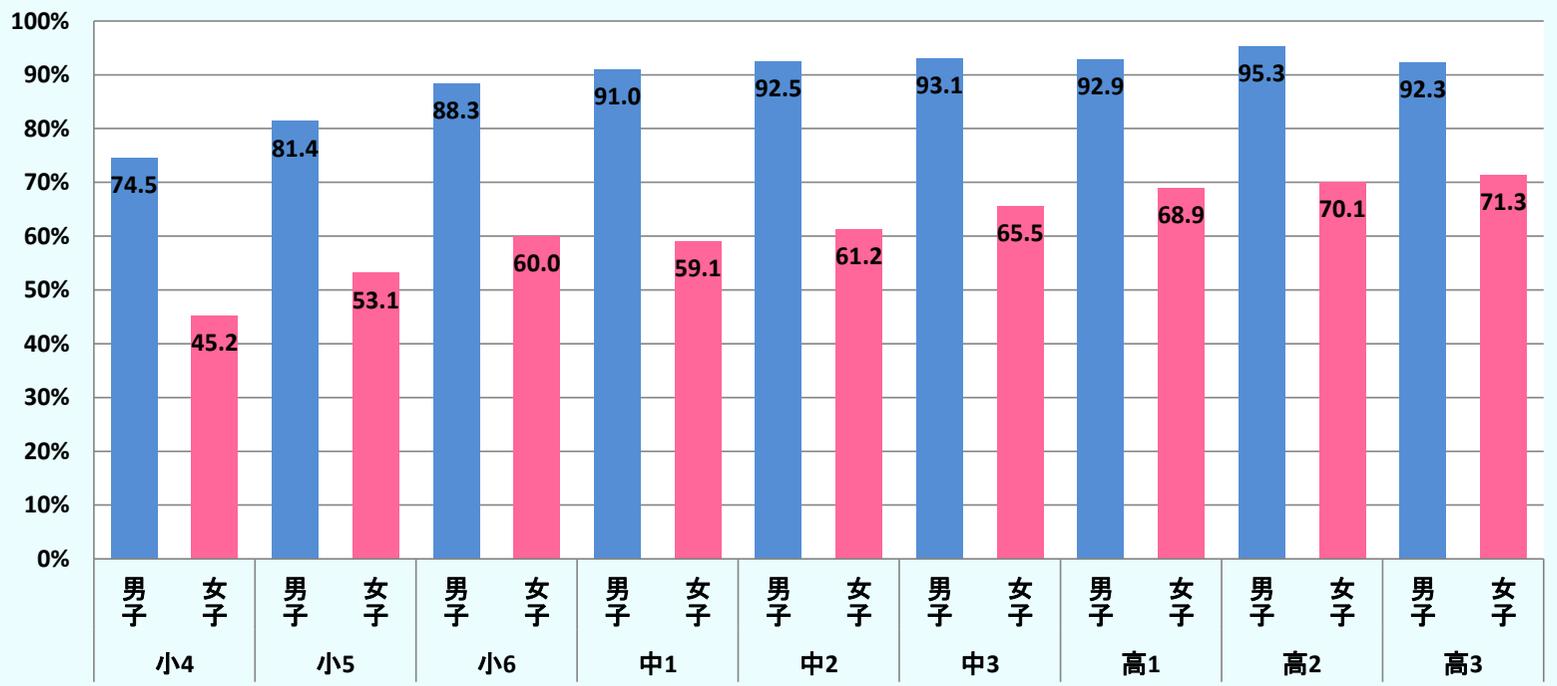
【傾向】

・前年と比較して、他人の悪口等の書き込みは減少傾向だが、小学校1、3年生では大きく増加。

【指導・啓発のポイント】

・個人情報や他人を誹謗中傷する書き込みについて、書き込む側、書き込みをされた側の気持ちを想像させ、他人の人権を尊重した適切なSNS等の使い方について考えさせる。

Q9.あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。



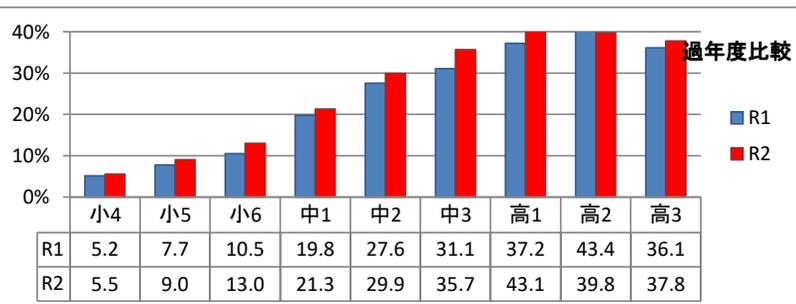
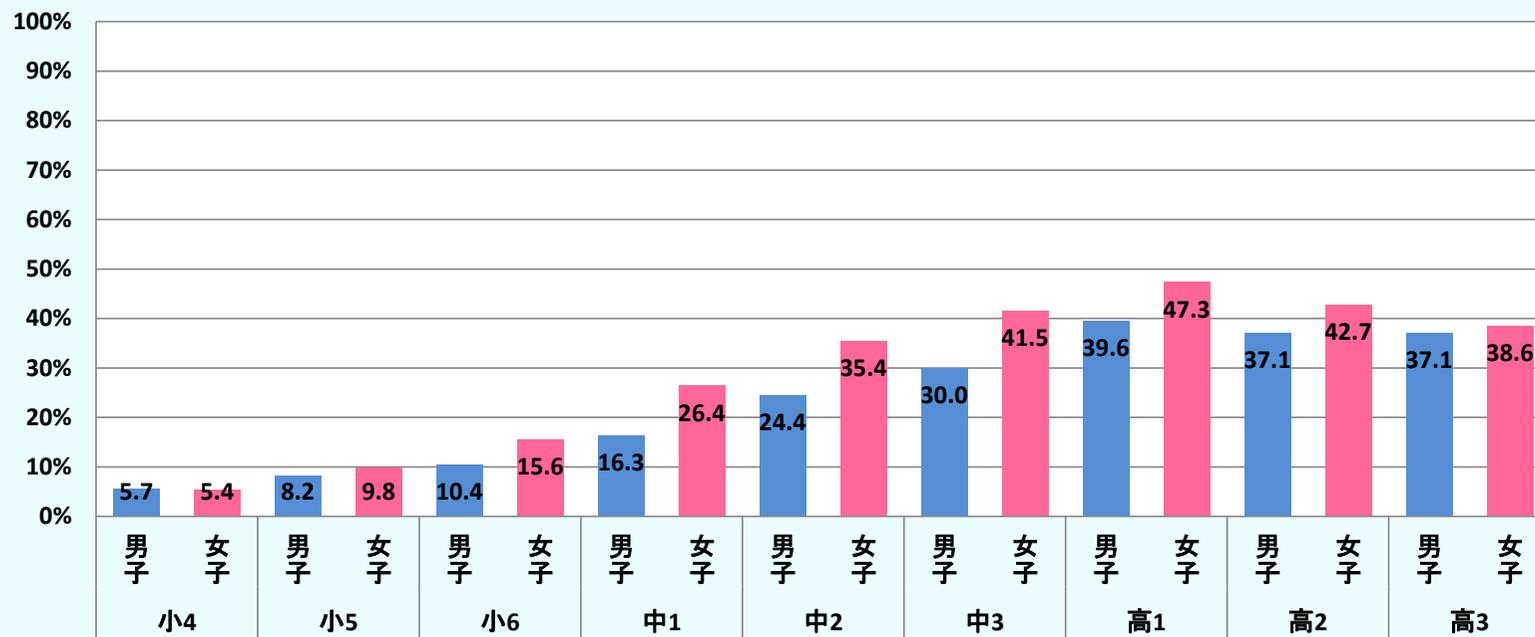
【傾向】

・全体的に増加傾向にあり、女子と比較して、男子の利用割合が高い。

【指導・啓発のポイント】

・児童生徒にとって、魅力的なオンラインゲームの開発が進んでおり、ゲーム内での交流も円滑にできるようになっている。特に、ボイスチャットでの交流ができるオンラインゲームが多くなってきており、ゲーム上の交流の中で大きなトラブルに発展したケースもある。このような事例を紹介しつつ、継続的な注意喚起を児童生徒、保護者に向けて行う必要がある。

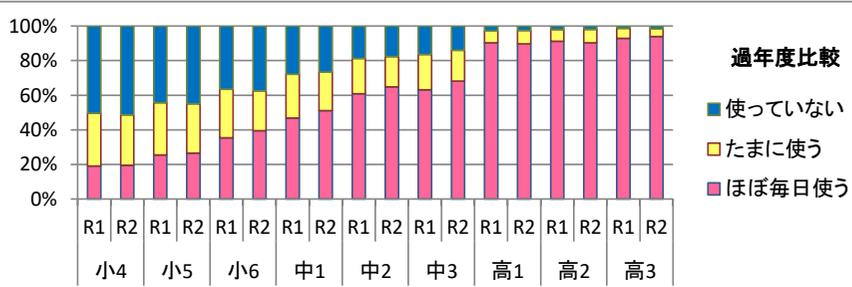
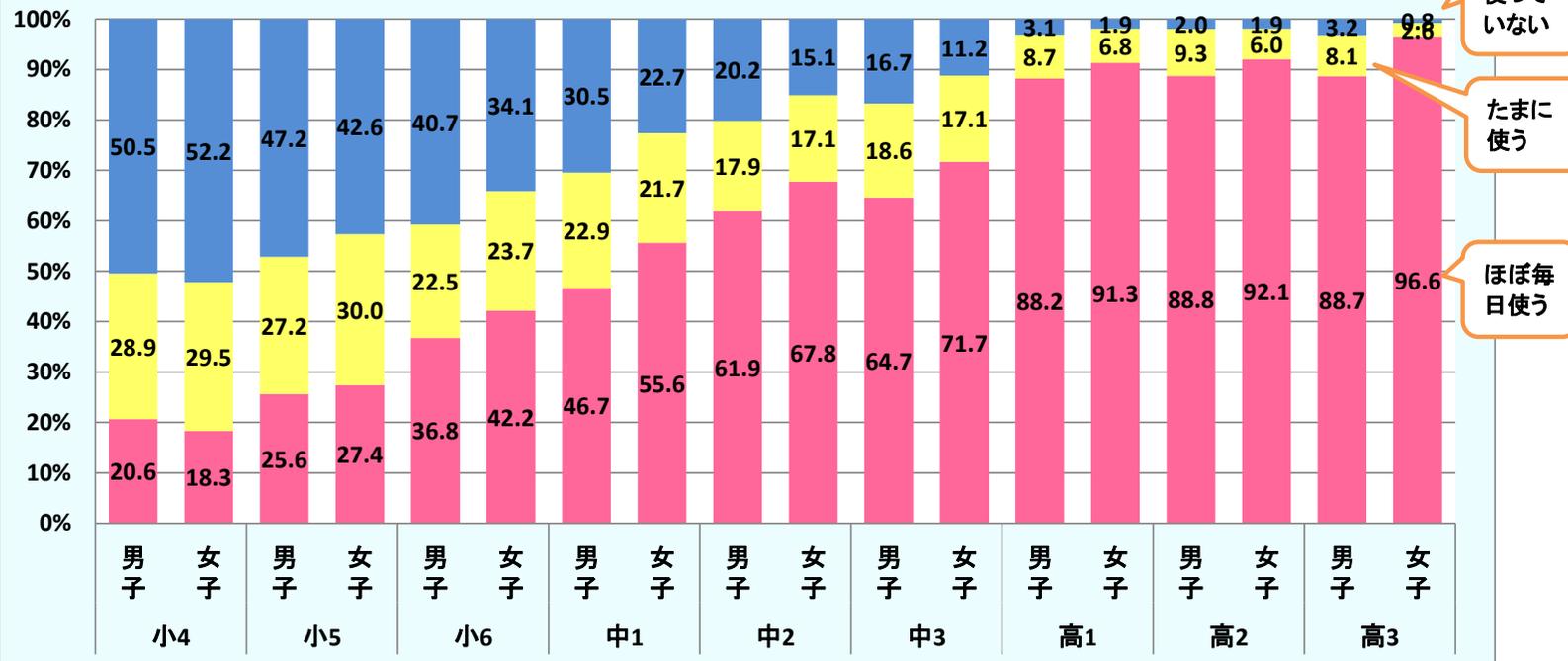
Q10.あなたは、携帯電話やパソコンから見る事ができる自分のホームページ
(ブログ・プロフを含む)をもっていますか。



【傾向】
 ・前年度より増加しており、どの学年も女子の利用が多い。

【指導・啓発のポイント】
 ・ネットに書き込んだものはデジタルデータとして無限にコピーでき、拡散することができる。いったん書き込んだら消すことはできないため、個人情報などがネット上に流出した際には、見知らぬ人から連絡があったり、犯罪に巻き込まれる可能性があることを児童生徒に理解させる。
 ・情報を発信する際には、自分だけではなく、友人や家族の個人情報を守ることも意識させる。

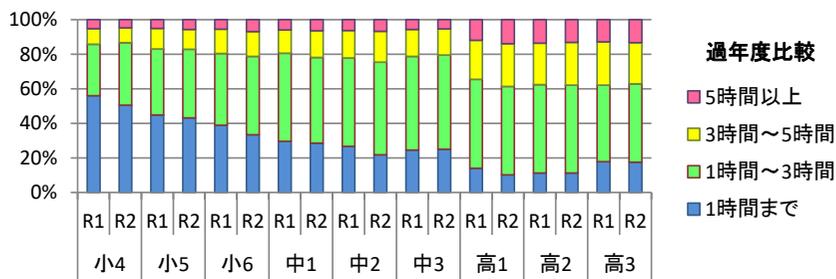
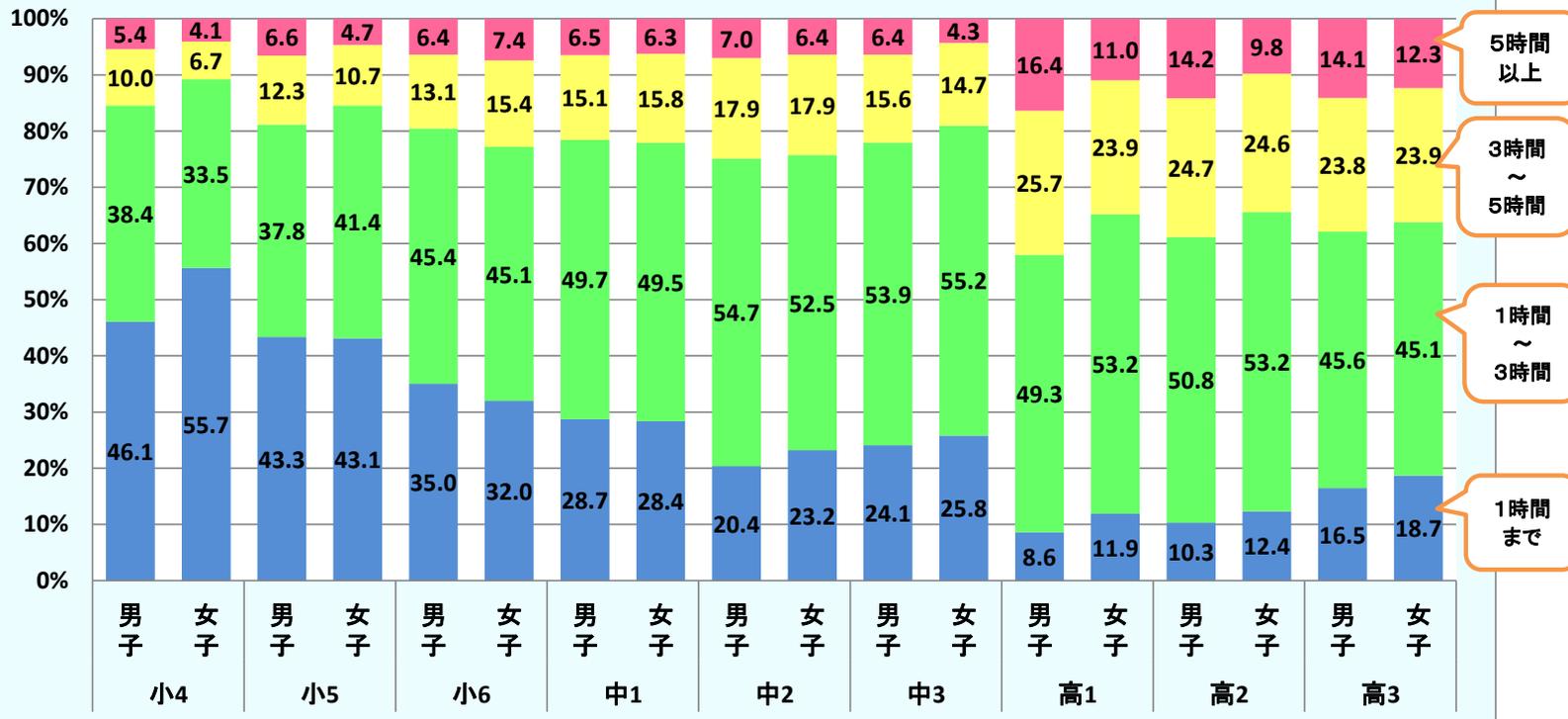
Q11.ホームページを見たり、メールやチャットをしたり、SNSを使ったり、
オンラインゲームをしたりするために、携帯電話をどれくらい使いますか。



【傾向】
 ・全ての学年において、「ほぼ毎日使う」と答えている割合が増加している。特に、高校生はほぼ毎日使っているが約9割以上である。

【指導・啓発のポイント】
 ・インターネットの長時間利用を防ぐために、1日のうちインターネットに使える時間がどのくらいあるかを児童生徒、保護者が把握し、家庭内ルールを作ることが有効である。

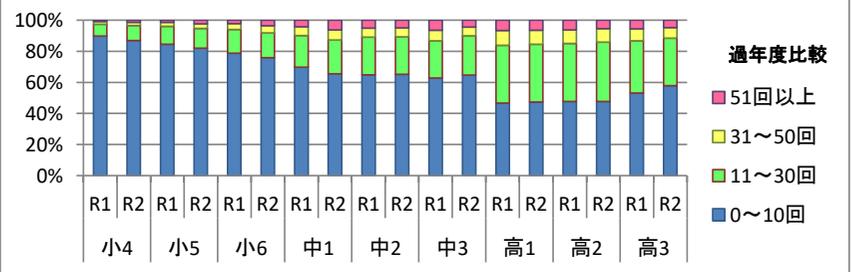
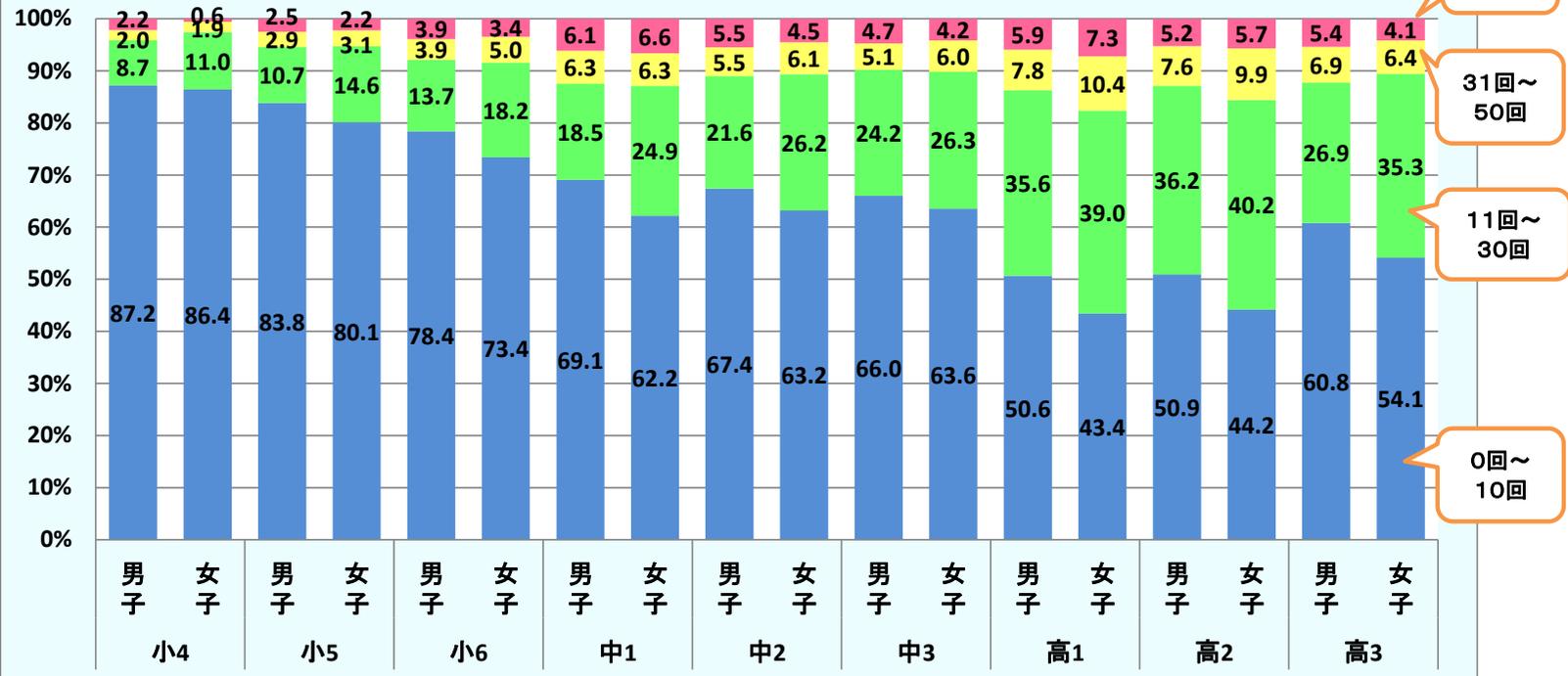
Q12.使う時間は1日あたりどれくらいですか。(Q11で「ほぼ毎日使う」と答えた人)



【傾向】
 ・前年と同様、高校生の使用時間が長く、40%近くは3時間以上使用している。

【指導・啓発のポイント】
 ・長時間使用は、ネット依存・スマホ依存につながる。保護者懇談等を活用して、家庭内ルールやフィルタリング設定の有無、ペアレンタルコントロールについて周知、確認する。

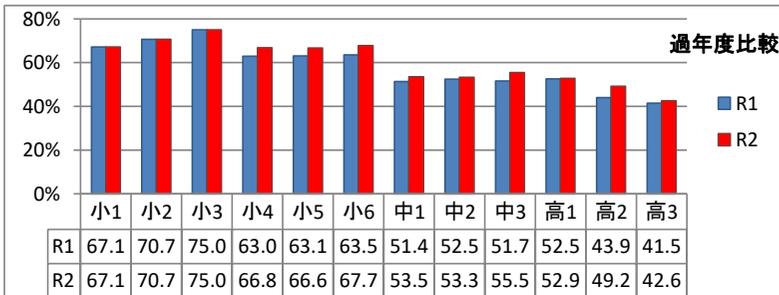
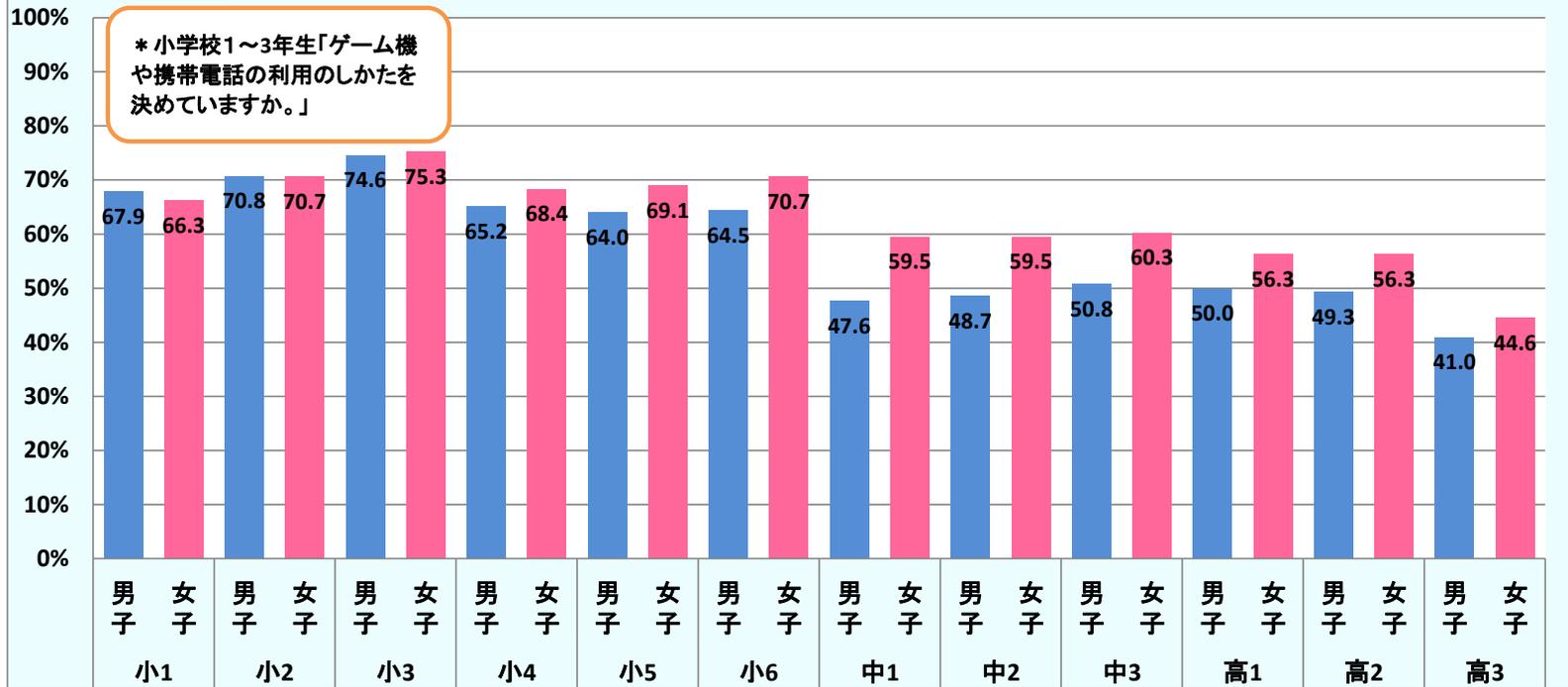
Q13.電子メールは、1日に何回ぐらい使いますか。
 (Q11で「ほぼ毎日使う」「たまに使うだけ」と答えた人)



【傾向】
 ・年齢が上がっていくにつれて、使用頻度が高くなっている。
 ・高校生女子の使用頻度が高い。

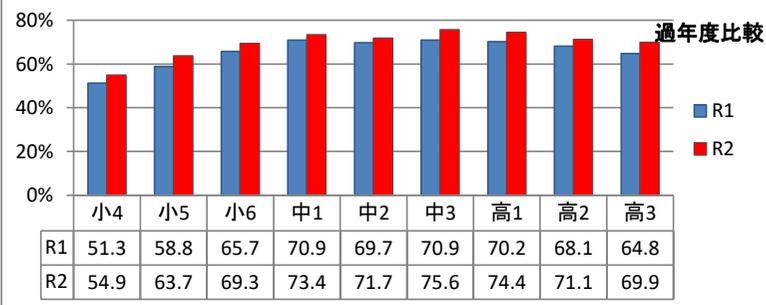
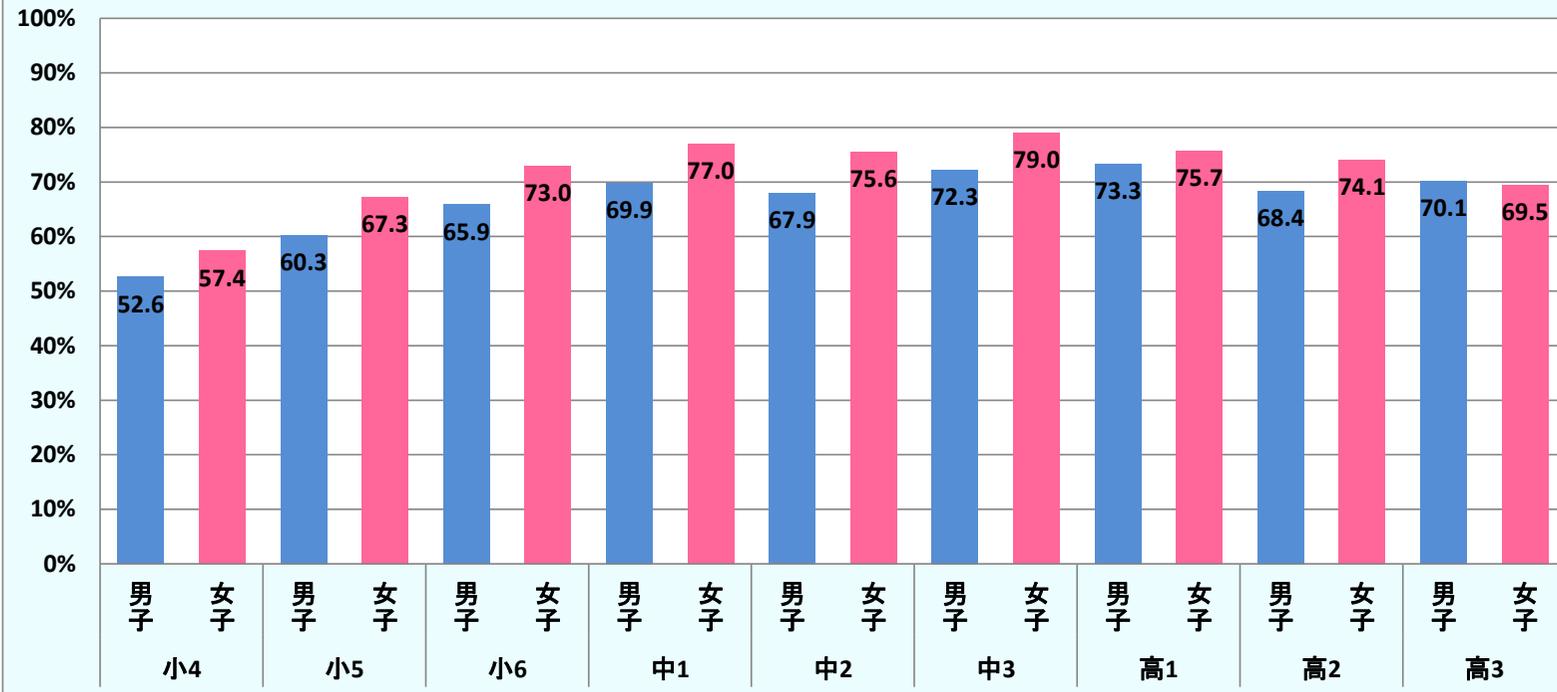
【指導・啓発のポイント】
 ・簡単に他人とのやり取りができる一方、相手に自分の意図が伝わらずトラブルに発展することも少なくないことから、自分自身のSNS等への書き込みを振り返り、適切に利用するためのルールや使い方を考えさせる。

Q14.あなたの家では自分が使う携帯電話(兄弟姉妹・保護者のものも含む)の
利用のしかたを決めていますか。



【傾向】
 ・前年と比較して、利用のしかたを決めている割合が増加している。
【指導・啓発のポイント】
 ・家庭でのルールづくりが広がりつつある。家庭内ルールを明文化し、児童生徒と保護者が共有する。
 ・子どもがネットやゲームをどのように利用しているかを保護者が確認しておくことが重要であることを周知する。

Q15.あなたは、家庭で情報モラルや携帯電話のマナーについて話を聞いたことがありますか。



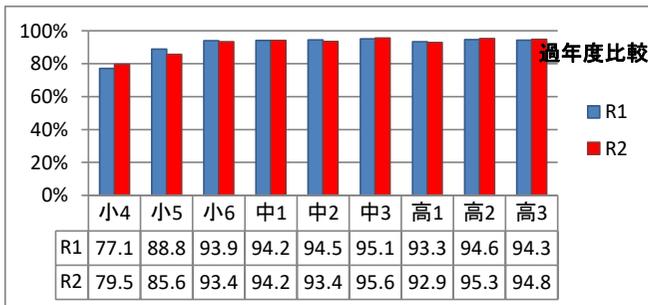
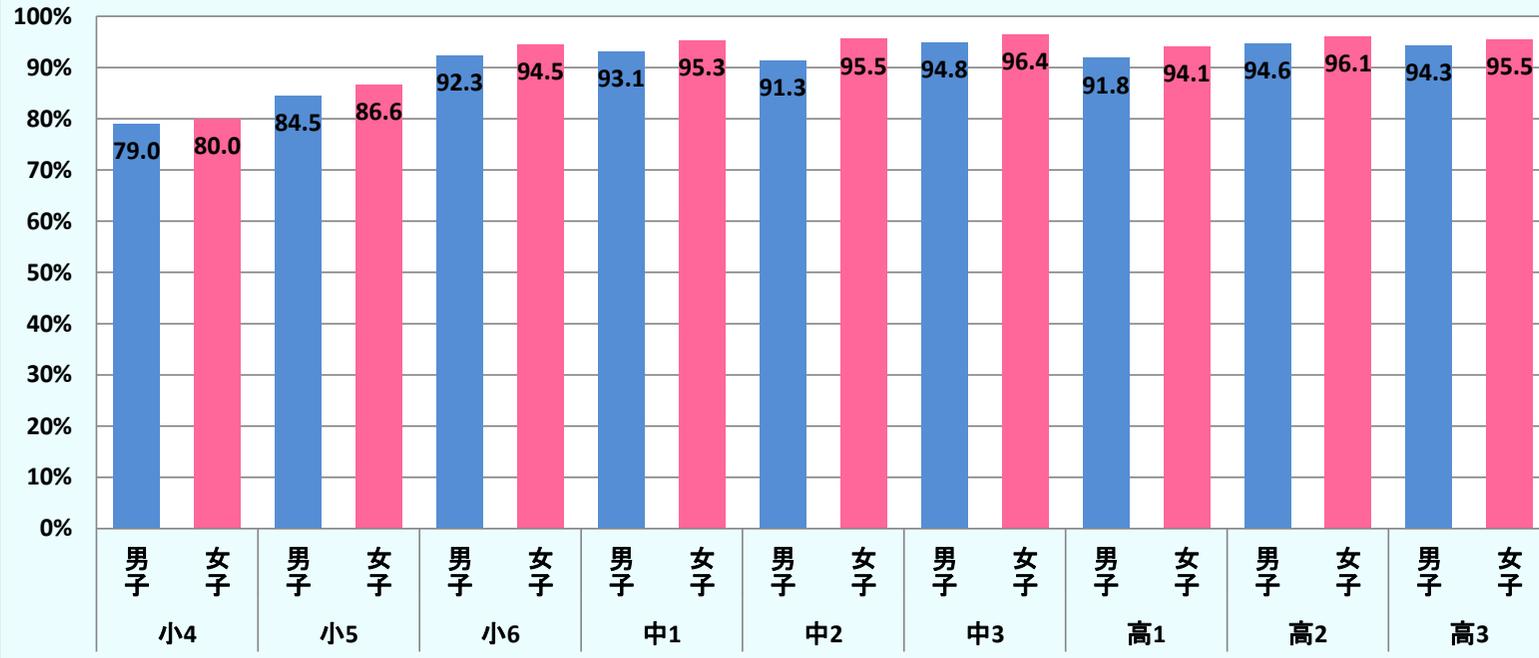
【傾向】

・どの学年においても、「話を聞いたことがある」の回答が増加している。

【指導・啓発のポイント】

- ・家庭において、短い時間でも、情報モラルやマナーに関する事例や出来事について話題にする。
- ・子どもがどのように使っているかを保護者が常に把握しておくことが必要。

Q16.あなたは、学校の授業(朝の会、帰りの会を含む)で、情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがありますか。



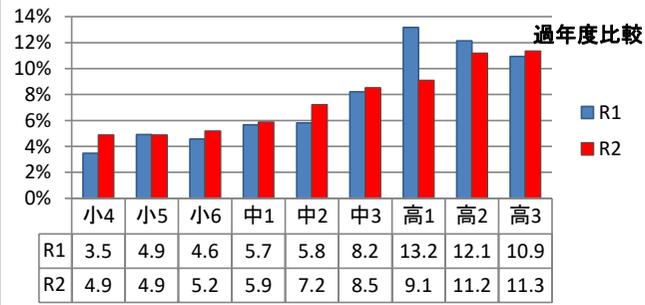
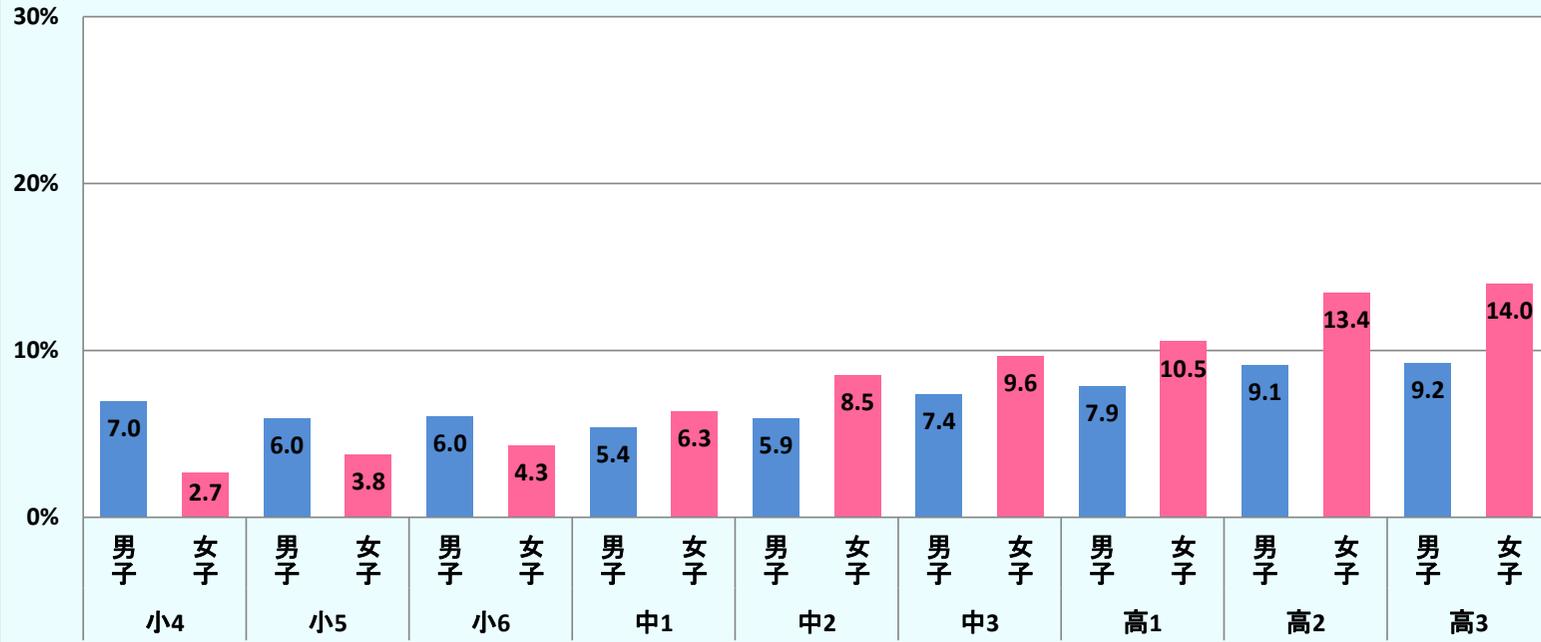
【傾向】

- ・例年、高い水準を維持している。
- ・小学校6年生以上では、約90%以上となっている。

【指導・啓発のポイント】

- ・携帯型ゲーム機からも、インターネットに接続し、面識のない人とも通信が可能であることから、小学校低学年から、情報モラルやマナーについて継続的な指導が必要。
- ・新聞やニュースで情報モラルに関わる内容が話題になったときに、朝の会・SHRや保護者会などで取り上げ、意見交流するなど、日常的に指導する。

Q17.あなたは、インターネットや携帯電話のメールやチャット、SNSなどで被害を受けたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。



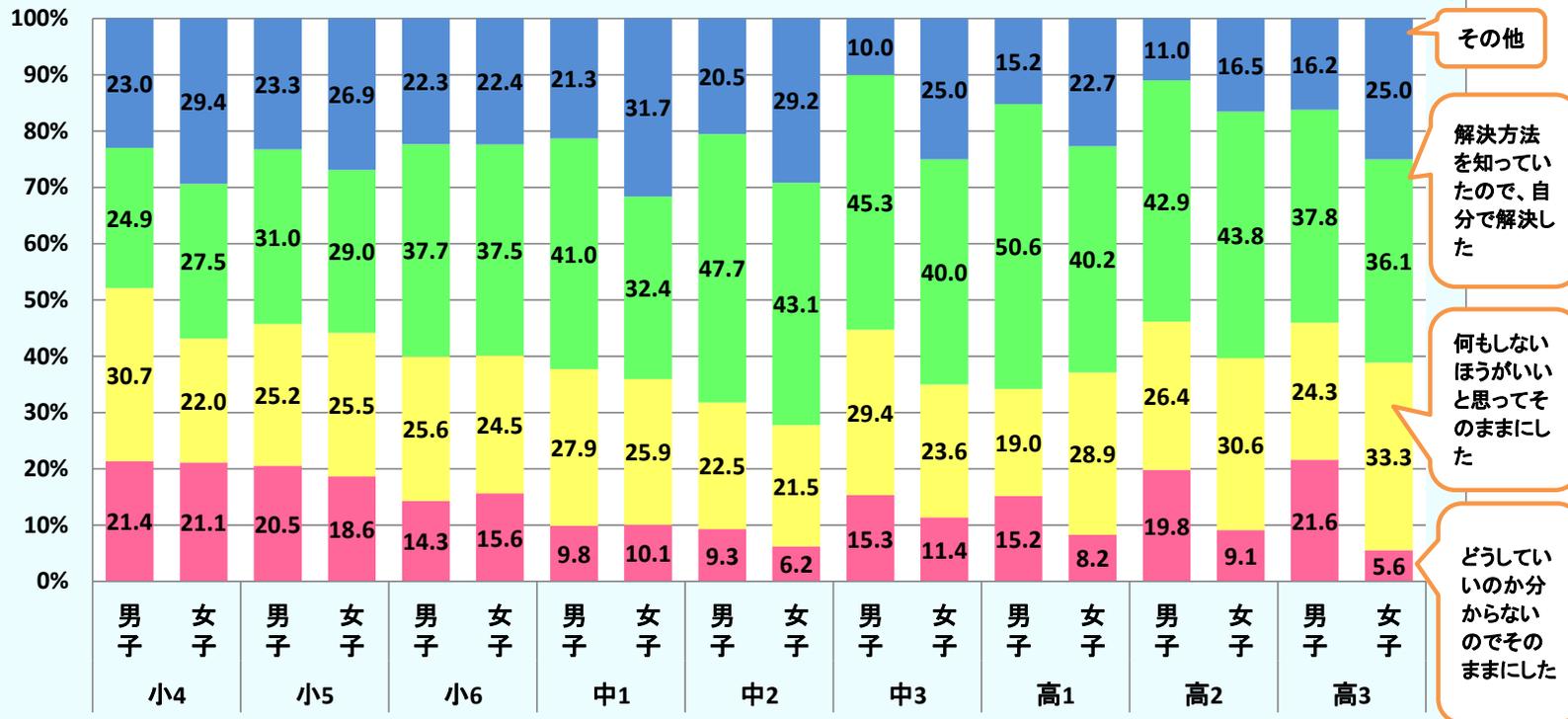
【傾向】

- ・前年度と比較して、小学生、中学生の被害が増加している。
- ・小学生では男子の割合が高く、中学生以降は女子の割合が高くなる。

【指導・啓発のポイント】

- ・推奨年齢を確認してから、利用するかどうかを判断することを、児童生徒・保護者に啓発する。
- ・ネット上の書き込みは、悪意がなくても、相手に自分の思いが伝わらない場合もあり、書き込む前に内容を確認するよう指導する。

Q18.被害を受けたとき、どうしましたか。(Q17で「ある」と答えた人のみ)

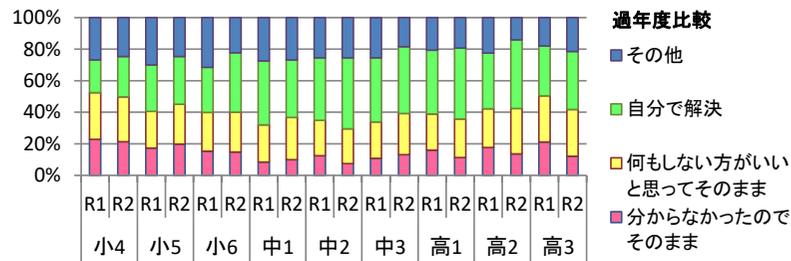


その他

解決方法を知っていたので、自分で解決した

何もしない方がいいと思ってそのままにした

どうしているのかわからないのでそのままにした



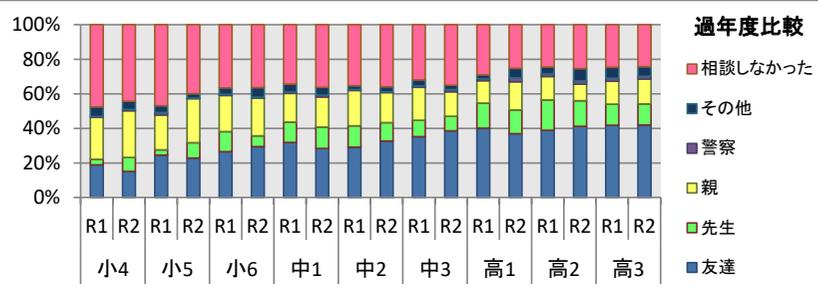
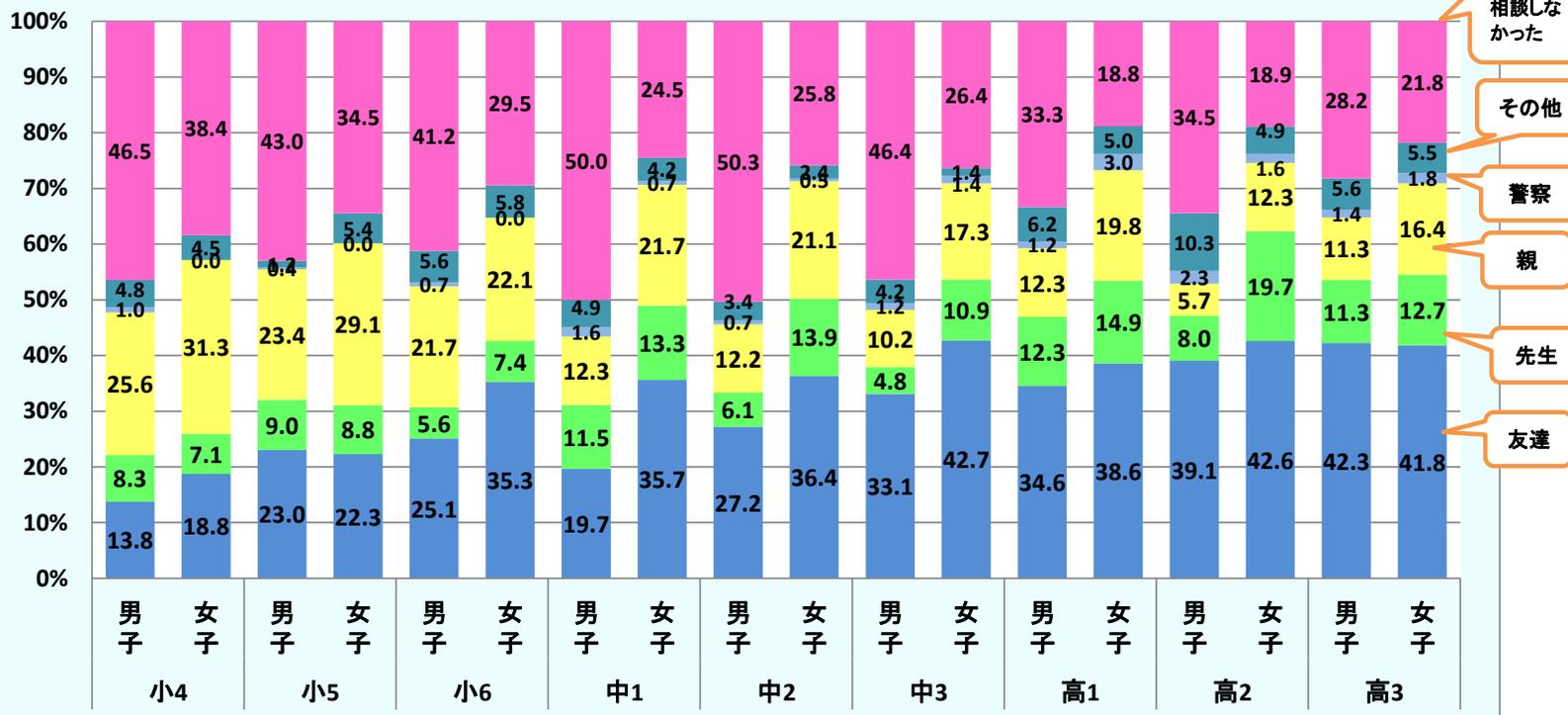
【傾向】

- ・どの学年においても、「何もしない」「どうしているのかわからない」の回答率が40%前後ある。
- ・どの学年においても、どうしているのかわからない、何もしないと回答した男子の割合が高い。

【指導・啓発のポイント】

- ・被害を受けたときのトラブル対応として、保護者、教員に気軽に相談できる体制を整え、外部の相談窓口などの情報を児童生徒に周知する。

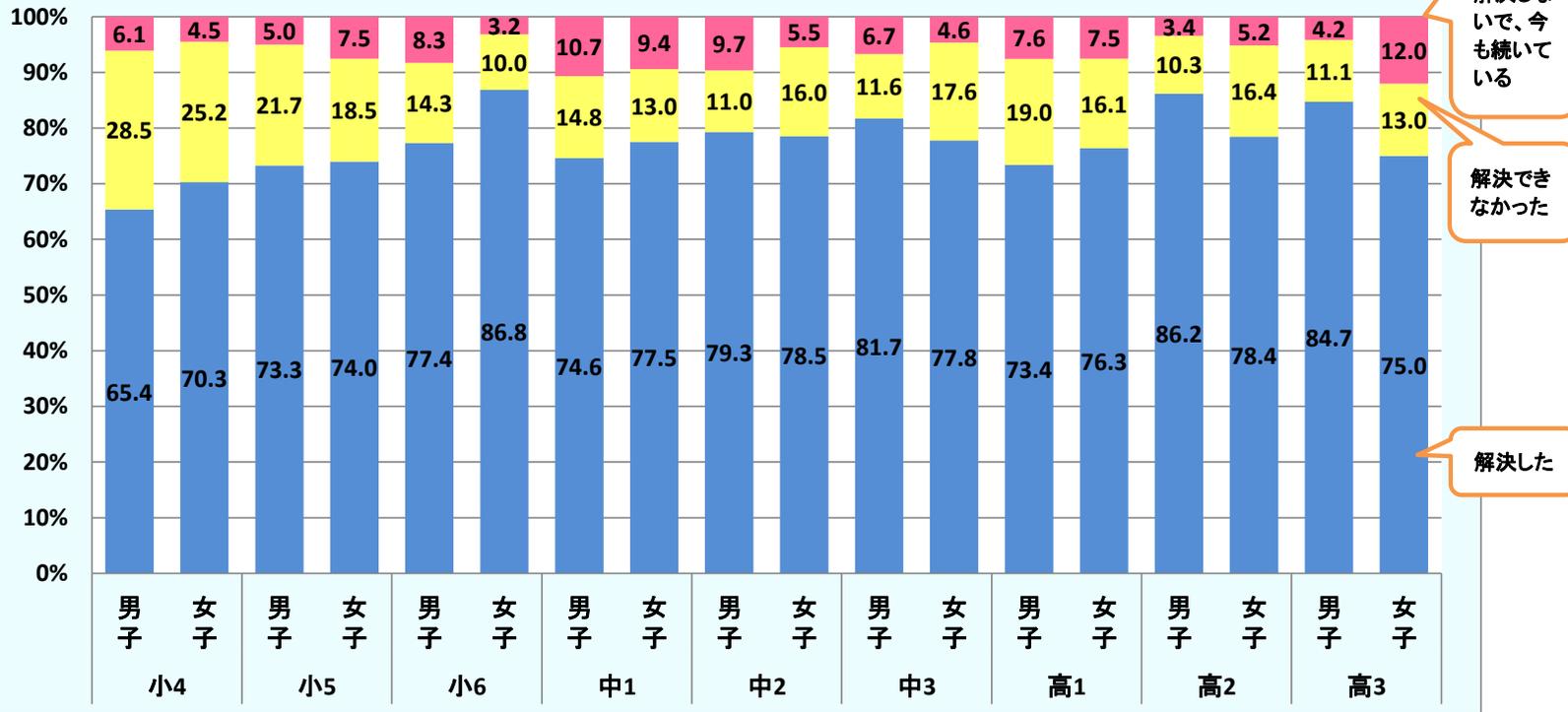
Q19.被害を受けたとき、誰かに相談しましたか。(Q17で「ある」と答えた人)



【傾向】
 ・中学生以上の男子は被害を受けても誰にも相談しない割合が高い。
 ・被害を受けても相談しない割合が高い。

【指導・啓発のポイント】
 ・「誰にも相談しない」「友だちに相談する」だけでは解決できず、より被害が拡大する可能性が高くなることから、被害にあった際には、親や先生など身近な大人に相談するよう指導する。

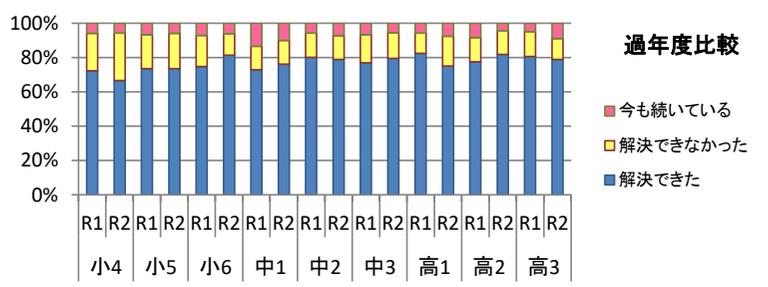
Q20.被害は解決できましたか。(Q17で「ある」と答えた人)



解決しないで、今も続いている

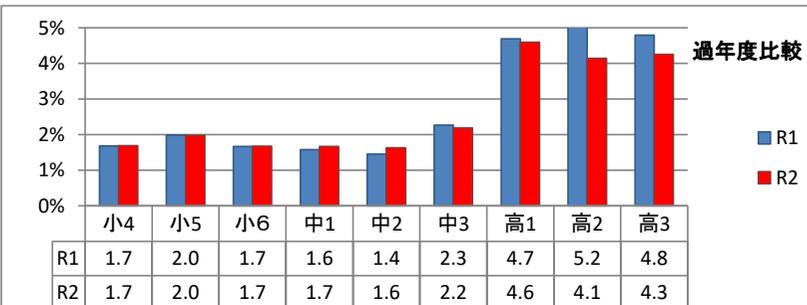
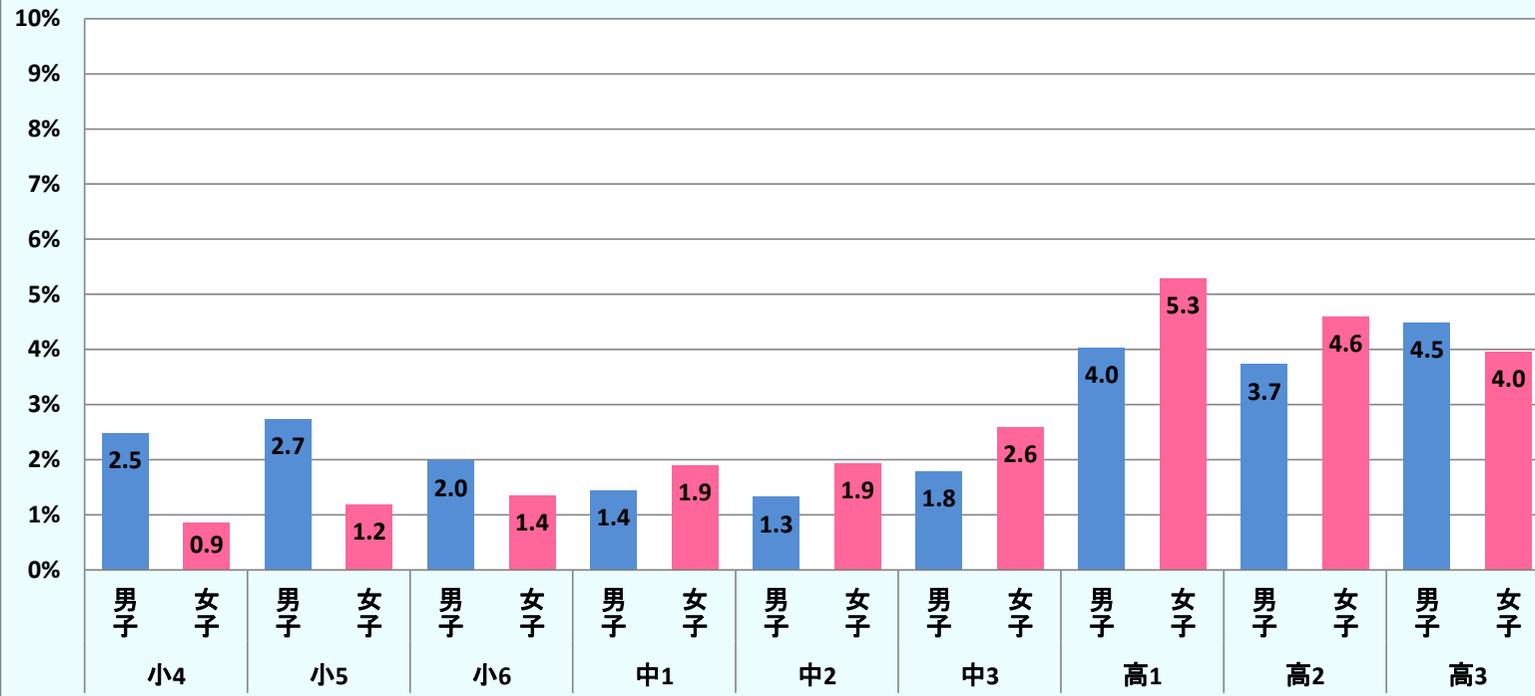
解決できなかった

解決した



【傾向】
 ・小学生において、「解決できなかった」「今も続いている」の割合が高い。
【指導・啓発のポイント】
 ・誰にも相談しなかったことで、解決できないケースが考えられることから、保護者や先生に気軽に相談できる体制を整え、外部相談窓口の紹介を定期的に周知する。

Q21.メールやSNSの書き込みで、いじめを受けたことがありますか。



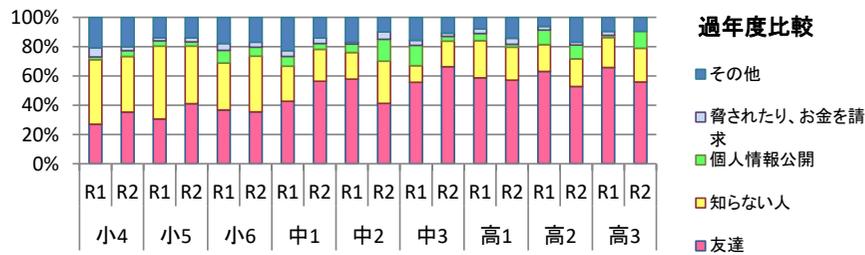
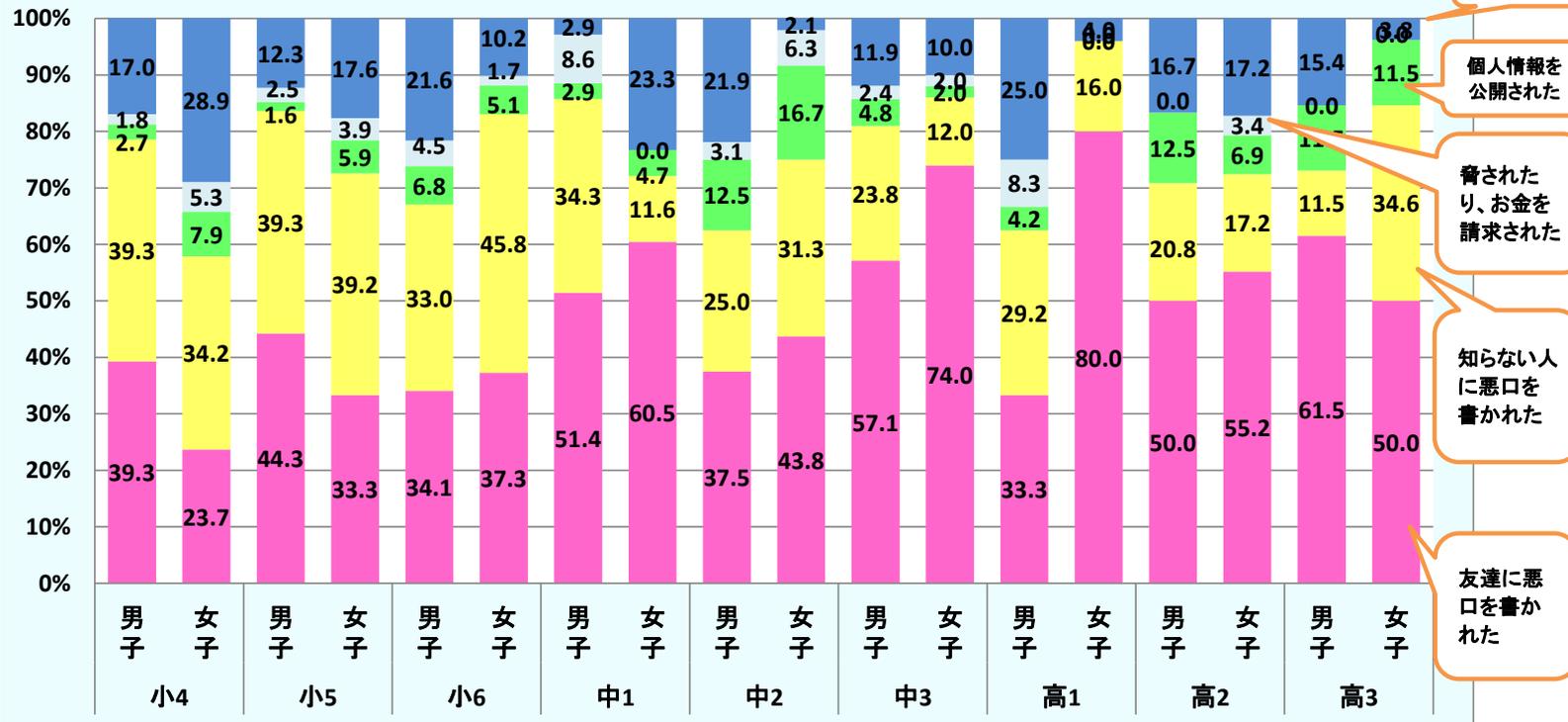
【傾向】

- ・前年度と比較して、中学生において、大きく増加している。
- ・小学校男子、高校生女子において、いじめを訴えている割合が大きい。

【指導・啓発のポイント】

- ・SNS等へ書き込む時は、言葉などを注意深く選び、自分の書き込みが、自分や他人にどのような影響を与えるかを考えさせ、自由なインターネットの世界でも、モラルやルールがあることを理解させる。

Q22.いじめを受けたと感じた理由は何ですか。(Q21で「ある」と答えた人)



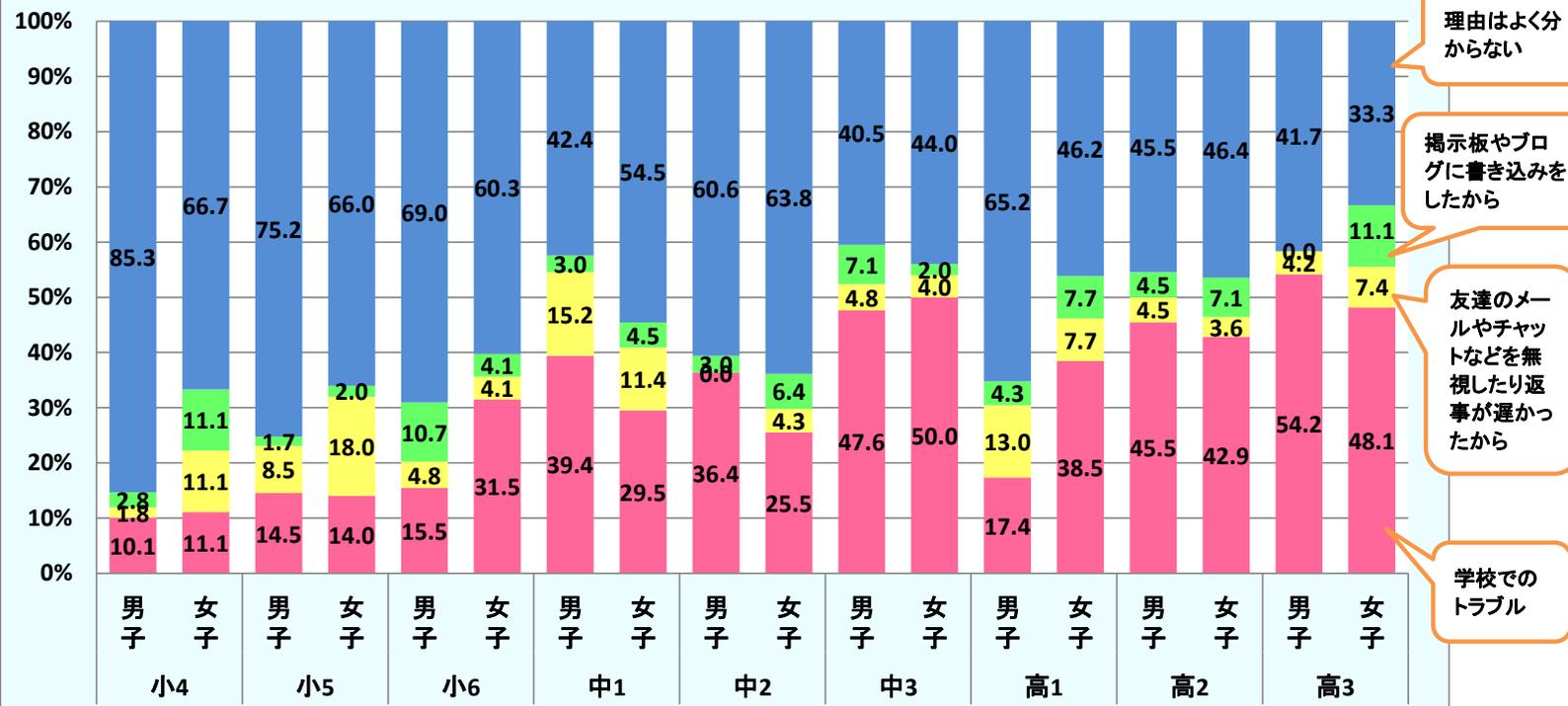
【傾向】

- ・小学校では、知らない人に悪口を書かれた割合が高い。
- ・どの学年においても、「脅されたり、お金を要求された」と回答した割合が一定数ある。

【指導・啓発のポイント】

- ・脅されたりした場合は、自分で対応しようとせず、すぐに担任の先生や保護者に相談できる体制を準備しておく。

Q23.何が原因でネットいじめを受けたと思いますか。(Q21で「ある」と答えた人)

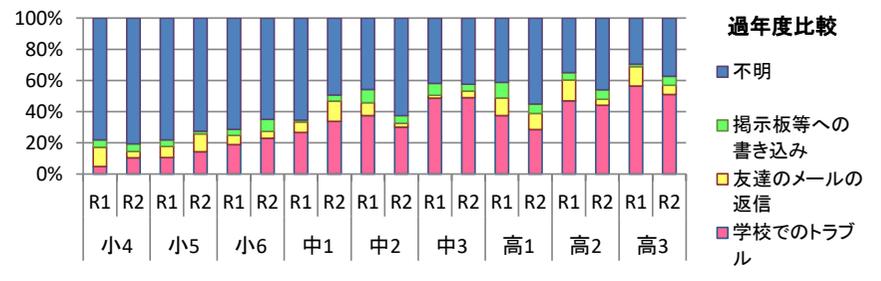


理由はよく分からない

掲示板やブログに書き込みをしたから

友達のメールやチャットなどを無視したり返事が遅かったから

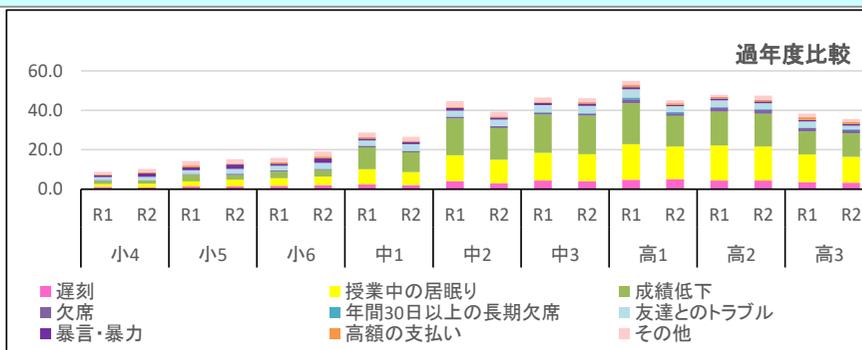
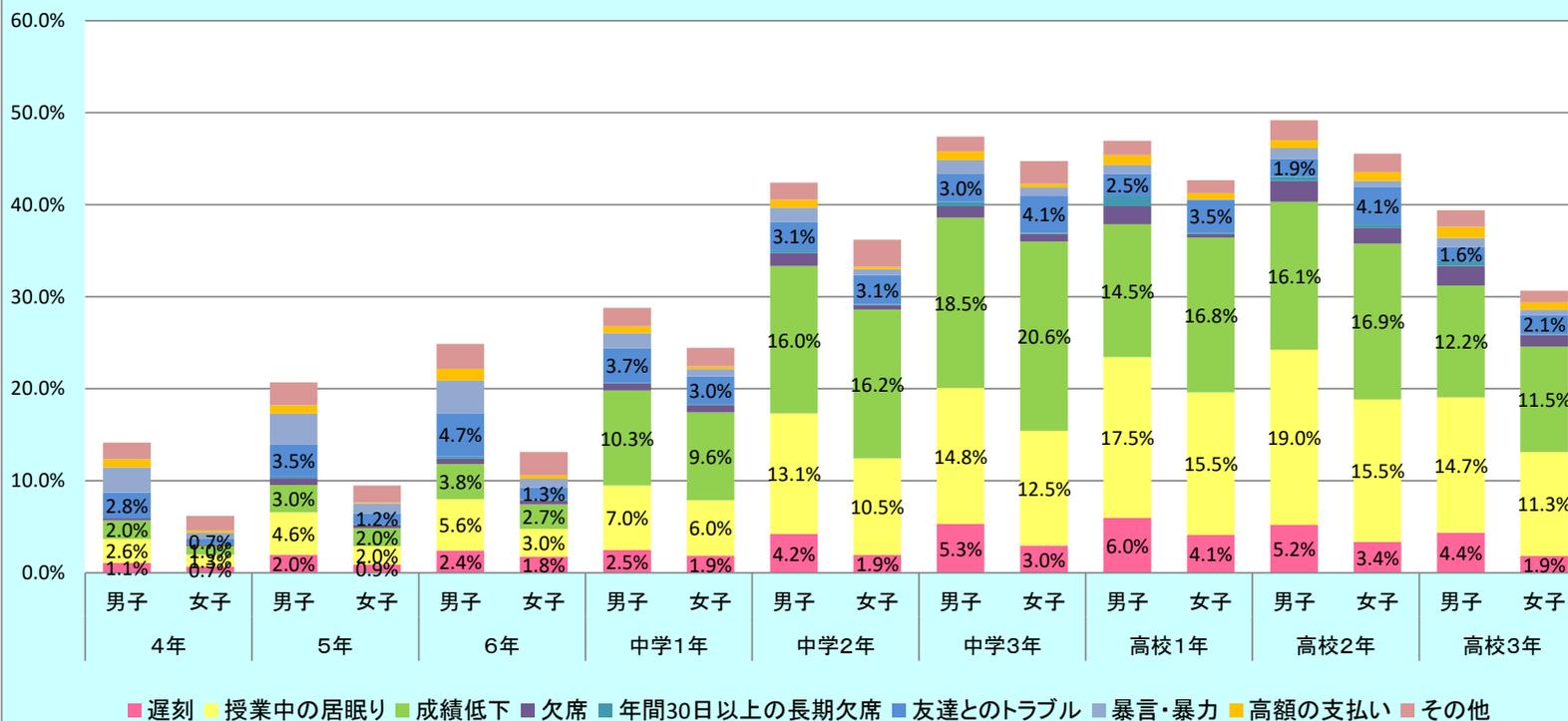
学校でのトラブル



【傾向】
 ・全体的に、「理由はよくわからない」の割合が高い。
 ・「学校でのトラブル」に起因するネットいじめの割合が、学年が進むにつれて高くなり、特に中学生以降顕著になる。

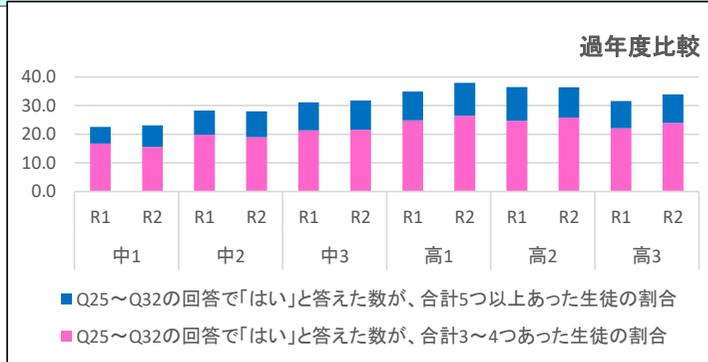
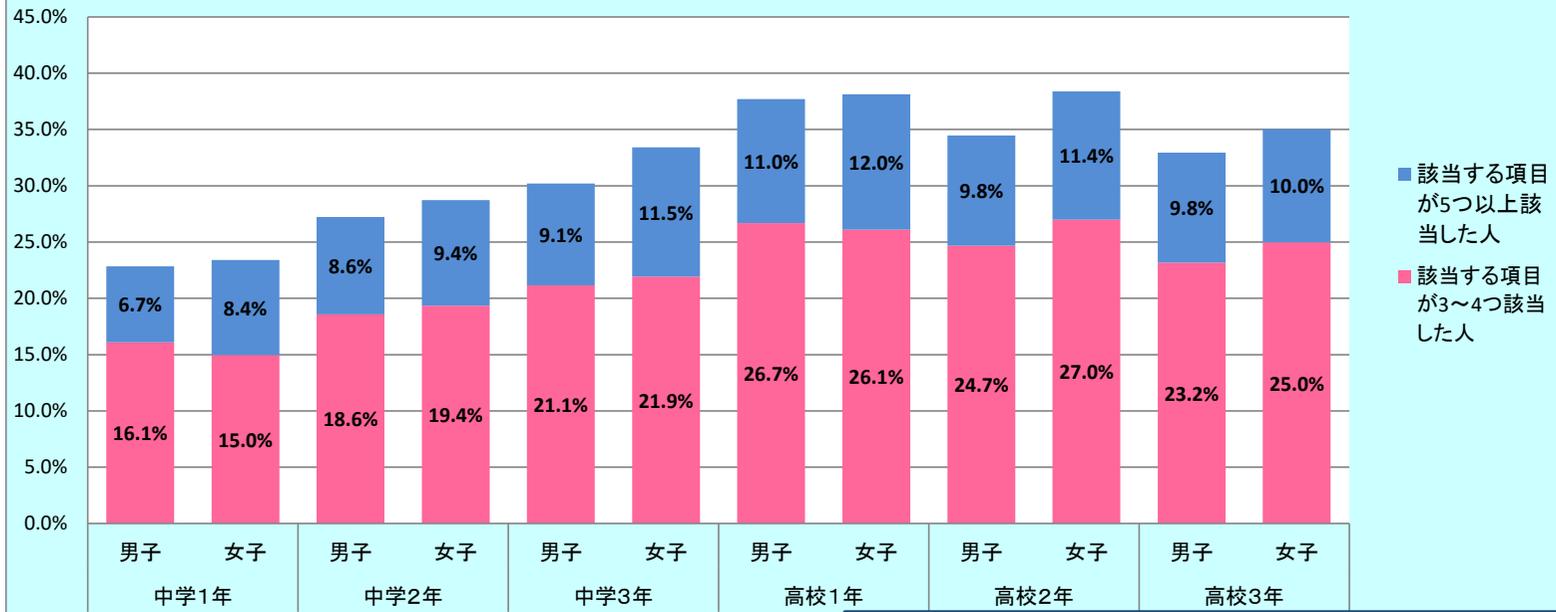
【指導・啓発のポイント】
 ・悪意はないものの、自分の伝えたい内容が相手にうまく伝わらず、トラブルになっている可能性もあることから、気をつける点について考えさせる。

Q24.今までにインターネットの使いすぎにより何か問題を起こしたことがありましたか。



【傾向】
 ・中高生は、授業中の居眠りや成績低下を自覚している。
【指導・啓発のポイント】
 ・インターネットの長時間利用が日常生活に及ぼす悪影響は大きいことを認識させ、一日のうちに自由に使える時間を意識して利用することを児童生徒、保護者に周知啓発する。

ネット依存傾向について



【傾向】

・ネット依存傾向がみられる生徒が、前年と比較してほぼすべての学年で増加している。

【指導・啓発のポイント】

- ・5つ以上該当した人は、ネット依存の傾向が高い。3~4つ該当した人もかなり注意する必要がある。
- ・ゲーム機やスマートフォン等によるネットやゲームの利用状況について振り返らせ、家庭で保護者と話し合い「家庭内ルール」を作る。
- ・依存が心配な児童生徒は、保護者に学校に相談することを促す。必要に応じてスクールカウンセラーや専門医療機関につなげることも必要。

項目

インターネットに夢中になっていると感じている。
満足を与えるために、インターネットを使う時間をだんだん長くしていかなければならないと感じている。
インターネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがたびたびある。
インターネットの使用時間を短くしたり、完全にやめようとした時、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じる。
使いはじめに意図したよりも長い時間インターネットを接続した状態である。
インターネットのために大切な人間関係、学校のことや、部活動のことを台無しにしたり、あやうくすることがあった。
インターネットへの熱中のしすぎをかくすために、家族、学校の先生や他の人たちにうそをついたことがあった。
問題から逃げるために、または、絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどといったいやな気持ちから逃げるために、インターネットを使う。